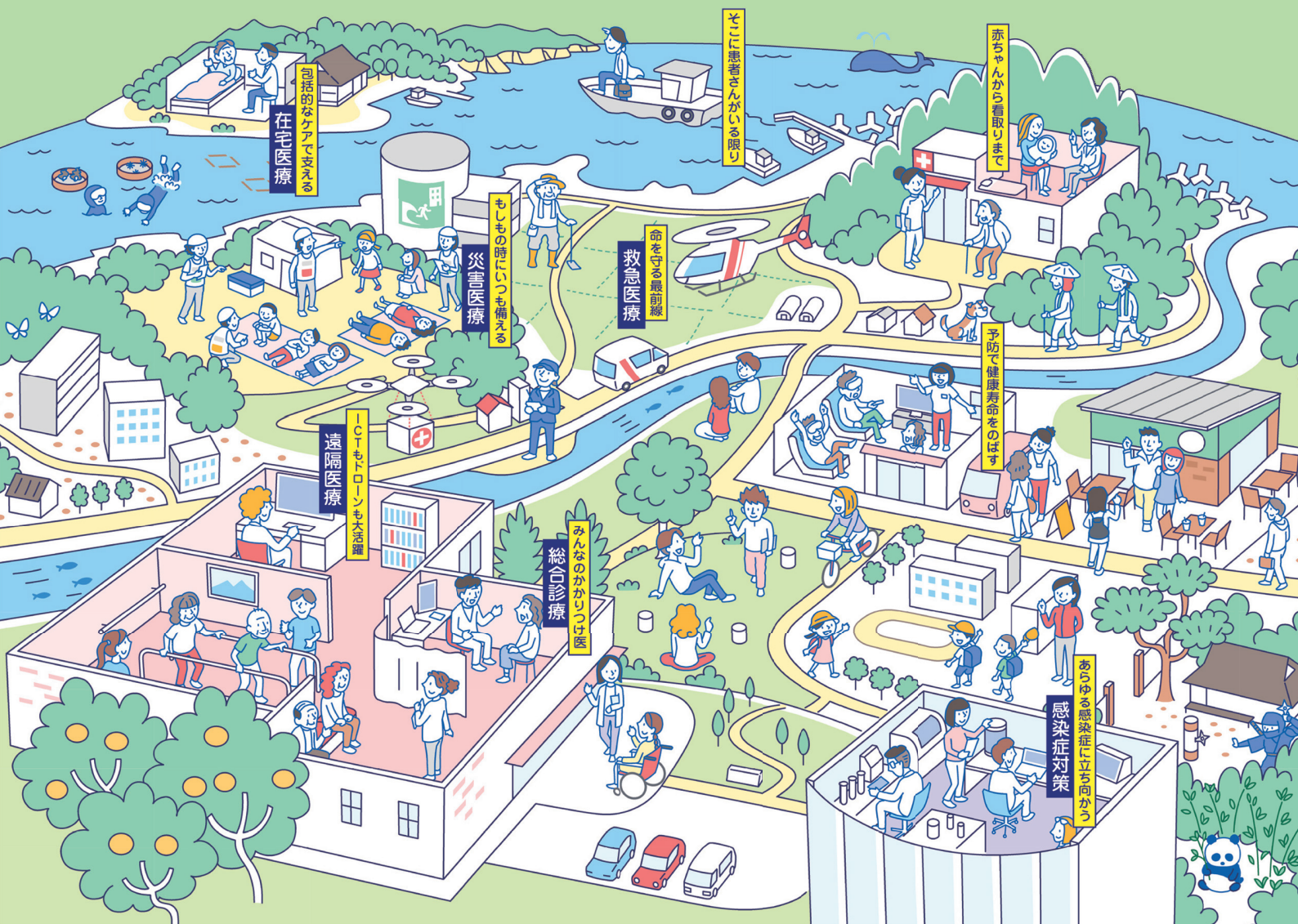




令和5年度 事業報告書

(令和5年4月～令和6年3月)

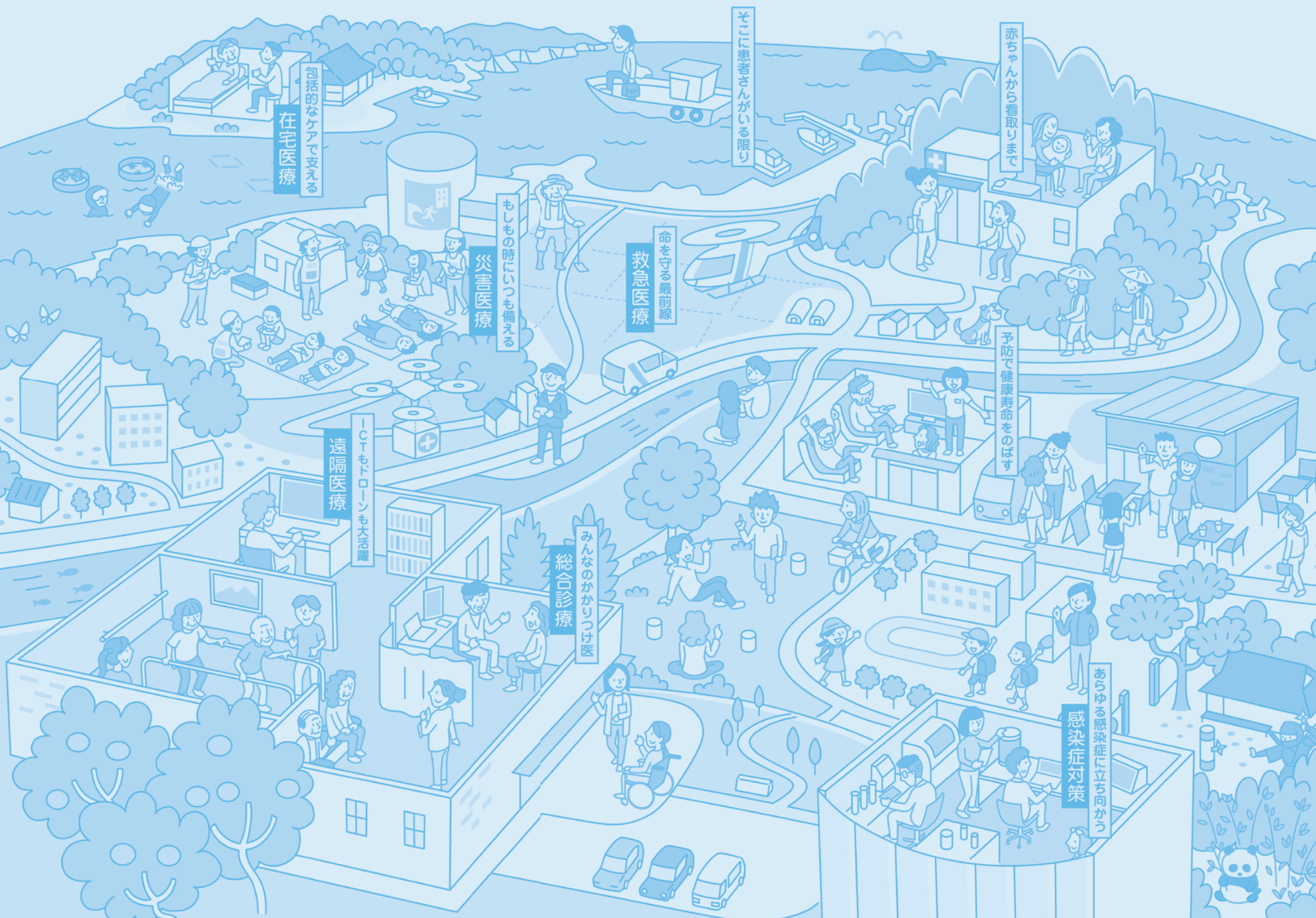




I	黒潮医療人養成プロジェクト事業概要	2
	1. 黒潮医療人養成プロジェクトとは?	2
	2. プロジェクト参加施設	3
	3. 教育プログラム	3
	4. 期待される効果	6
	5. 3大学の教育プログラムの実施概況（令和5年度）	7
II	事業実施・評価の体制	10
	1. 事業実施体制	10
	2. 事業評価体制	14
III	事業実施状況報告	16
	1. 教育プログラム	16
	① 高知大学	16
	② 和歌山県立医科大学	18
	③ 三重大学	20
	2. 大学間連携事業	25
	① e-learning	25
	② 合同シンポジウム	29
	③ 学生相互派遣・交流	38
	④ サイトビジット	42
	3. 地域志向性アンケート調査	46
	① 研究計画書	46
	② 令和5年度調査結果	47
	③ 経年比較	48
	4. ウェブサイト	50

I

黒潮医療人養成プロジェクト 事業概要



I 黒潮医療人養成プロジェクト事業概要

1. 黒潮医療人養成プロジェクトとは？

本プロジェクトは文部科学省の「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」(図1)として採択された7年間の事業です。高知大学を代表校として、和歌山県立医科大学、三重大学とともに地域ニーズに応える総合的な能力を有する「黒潮医療人」を養成することを目標としています。

3大学の立地する3県は、太平洋に面し長い海岸線を有するという地形的な特徴があり、県中心部より遠隔地の過疎高齢化の進展、医療確保が課題となっています。さらに、南海トラフ巨大地震の震源域にあり、発災時には大きな津波被害が想定され、災害医療、公衆衛生において大きな地域ニーズが発生することが予測されています。このような地域課題を共有する3大学において、行政、地域医療機関とも連携し、学生がより深く学ぶことができるよう医学部教育の継続的な改善を目指すものです。

本事業は、大学医学部における養成課程の段階から医師の地域偏在及び診療科偏在や高度医療の浸透、地域構造の変化等の課題に対応するため、将来、地域医療に従事しようとする意思をもつ学生を選抜する枠を活用し、地域にとって必要な医療を提供することができる医師の養成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点を構築することを目的としています。(文部科学省ウェブサイトより引用)

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

令和4年度予算額 8億円
(新規)

課題・背景

- 新型コロナウイルス感染症を契機に、医療人に**求められる資質・能力が大きく変化**。
- 高齢化の進展による**医療ニーズの多様化**や**地域医療の維持**の問題が顕在化。
- 高度医療の浸透や地域構造の変化**(総合診療医の需要の高まり、難治性疾患の初期診断・緩和ケアの重要性等)により、従来の医師養成課程では対応できていない領域が発生、**新時代に適応可能な医療人材の養成**が必要。

事業内容

- **医療ニーズを踏まえた地域医療等に関する教育プログラムを構築・実施**
 - ◆ 地域ニーズの高い**複数分野(総合診療、救急医療、感染症等)**を**有機的に結合させ横断的に学ぶことのできる教育**の実施により、地域医療のリーダーとなる**人材の育成**。
 - ◆ **地域医療機関での実習等**を通じて、
 - ① 地域の課題を踏まえた教育研究の実現や地域医療への関心を涵養
 - ② 専門に閉じない未分化・境界領域への対応力を涵養
 - ◆ **オンデマンド教材**等の教育コンテンツの開発

社会環境の変化に対応できる資質・能力を備えた医療人材養成のための教育プログラムの開発及び教育・研究拠点の形成

支援期間： 7年間
単 価： 0.7億円
件 数： 11拠点 (拠点大学を中心に医学部を置く国公立大学間で連携・展開)

◆ 地域医療現場を常に意識した教育・実践
◆ 地域の病院と大学病院の双方を経験・地域医療の課題を理解
◆ オンデマンド教育の充実

政策提言 (経済財政運営と改革の基本方針2021)

第3章 感染症で顕在化した課題を克服する経済・財政一体改革

(1) 感染症を機に進める新たな仕組みの構築

(略)あわせて、今般の感染症対応の検証や(略)潜在看護師の復職に係る課題分析及び解消、**医学部などの大学における医療人材養成課程の見直しや医師偏在対策の推進**などにより、質が高く効率的で持続可能な医療提供体制の整備を進める。

図1. 文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」

2. プロジェクト参加施設

本プロジェクトでは、大学外の地域の医療を担う病院を地域医療人材養成拠点病院と位置づけ(図2)、体験実習や長期滞在型クリニカルクラークシップの実習を展開します。

これらの病院には、地域卒卒業医師も多く勤務しており、キャリア教育の面からも期待されます。

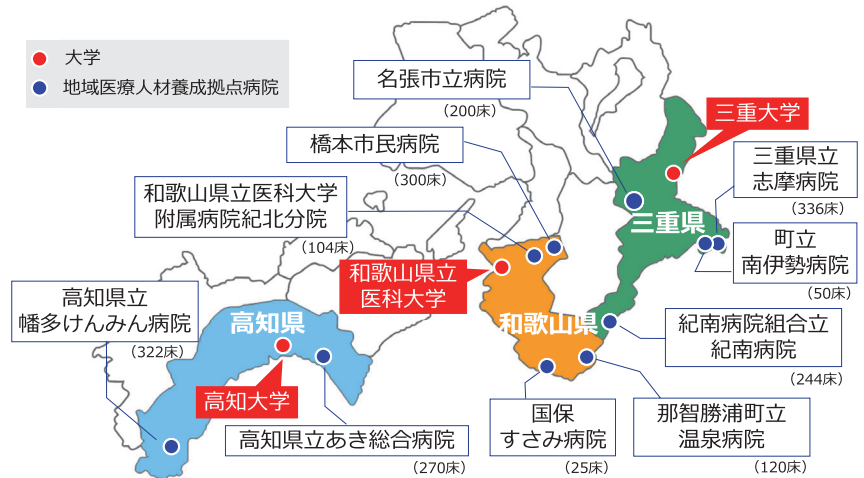


図2. プロジェクト参加施設

3. 教育プログラム

本プロジェクトでは、①体験実習、②アクティブラーニングコース、③長期滞在型クリニカルクラークシップ (LIC) を各大学のカリキュラムに沿って実施していきます(図3)。

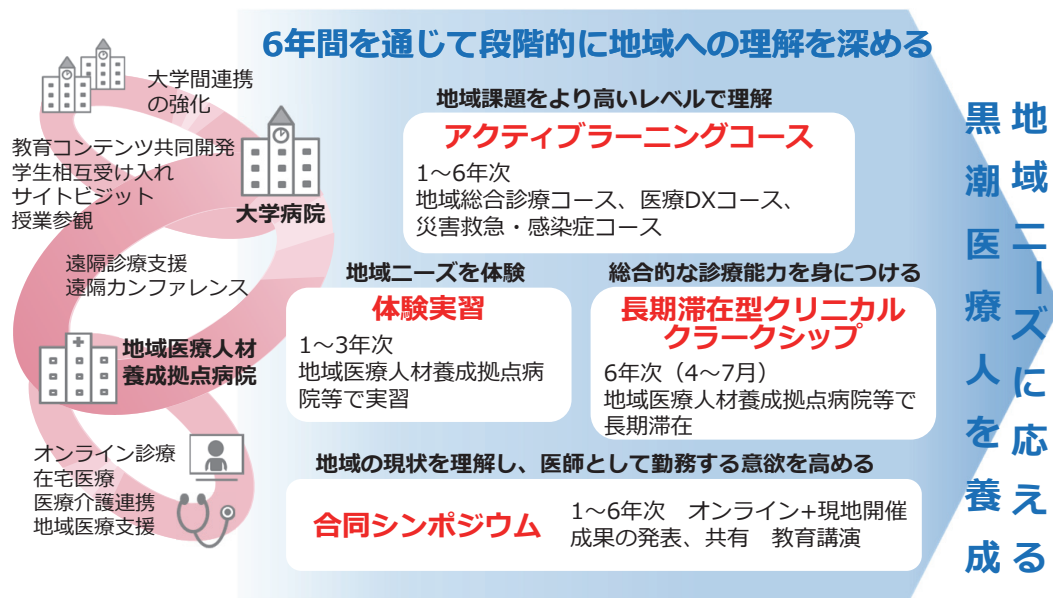


図3. 黒潮医療人養成プロジェクトの教育プログラム概要

これらの教育プログラムの実施には、地域医療人材養成拠点病院を学びのフィールドとして活用します。また、サイトビジット、授業の相互参観、e-learning コンテンツの共同制作、学生の相互交流などを積極的に進め、継続的に質の向上を目指します。また、年1回オンラインでの合同シンポジウムを開催し、相互交流を進める他、ウェブサイトやSNSを活用した情報発信もおこないます。

I. 事業概要

① 体験実習

低学年から地域医療人材養成拠点病院や地域に赴き、現場の医療を体験したり、地域診断等のプログラムを通して、地域のニーズを体験します。

大学名	対象学年 日程	人数 (年次)	内 容
高知大学	1年次 2月/8日間	20人	<ul style="list-style-type: none"> 大学病院での実習「臨床体験実習Ⅰ」「臨床体験実習Ⅱ」「臨床体験実習Ⅲ」を、地域医療人材養成拠点病院でも選択可能とする。
	2年次 9月/8日間	20人	<ul style="list-style-type: none"> 各病院に在籍する地域卒業医師（臨床研修医、専攻医）と学生がペアとなり、マンツーマンで直接指導を受ける。 救急受診、入院支援、在宅医療など地域ニーズを理解できる内容を学ぶ。
	3年次 2月/8日間	20人	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップや地域踏破など、病院外の実習プログラムも含む。 全学生を対象とするが、希望者多数の場合は地域卒業生を優先する。
和歌山県立 医科大学	2年次 10月/2日間	6人	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の一環である附属病院での病棟実習Ⅰ、病棟実習Ⅱを地域医療人材養成拠点病院等でも実施可能とする。 在籍する地域卒業医師とペアとなり直接指導を受ける。
	3年次 2月/2日間	8人	<ul style="list-style-type: none"> 地域卒業生が主であるが一般卒業生も選択可とする。 地域医療におけるコメディカルの役割、チーム医療についての理解を深め、医療の専門職としての役割の自覚と責任を感じる機会とし、モラル・人間性も身につける。
三重大学	1・2年次 通年	205人	<ul style="list-style-type: none"> 7～8名のグループにわかれ、各グループが県内全29市町村のうちの1市町村に2年間継続して関わる。 1年次は地域調査・地域診断をおこない、2年次には地域診断の結果に基づいて地域貢献活動を実施する。 全体講義、自己学習、グループ学習（教員・市町村担当者からの指導を含む）、実習により構成する。 看護学科との合同授業。

2 アクティブラーニングコース

複数年次にわたる能動的な調査・研究活動を通じ、地域課題をより高いレベルで理解します。

大学名	コース名	対象学年 日程	人数 (年次)	内 容
高知大学	地域総合 診療コース	2年次～ 4年次 通年 半日× 2回/週	5人	<ul style="list-style-type: none"> 先端医療学推進センター「地域総合診療・臨床疫学研究班」所属。 臨床現場での経験を通して、地域医療課題を抽出し、臨床疫学研究に取り組む。 3年間で1回以上の学会発表もしくは論文執筆をおこなう。
	医療DX コース		5人	<ul style="list-style-type: none"> 先端医療学推進センター「医療DX・データヘルス研究班」所属。 ICTを活用した遠隔医療、医療連携、多職種協働の現状について学習する。 EHR (Electronic Health Record)、PHR (Personal Health Record) を活用した地域支援について学習する。 3年間で1回以上の学会発表もしくは論文執筆をおこなう。
	災害救急・ 感染症コース		10人	<ul style="list-style-type: none"> 先端医療学推進センター「感染・災害救急医療研究班」所属 救護所設営等の救急医療災害訓練、津波避難タワー1泊体験実習、'98豪雨被災地見学研修などの災害実習を通して、避難所での感染症予防対策、感染症・災害医療の知識を習得する。 3年間で1回以上の学会発表もしくは論文執筆をおこなう。
和歌山県立 医科大学	地域総合 診療コース	1年次～ 5年次 5日間 または 10日間	5人	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療の課題についての事前学習として、アクティブラーニング（問題基盤型学習（PBL）、チーム基盤型学習法（TBL）、Case-based Discussion（CBD）等）、グループワーク、オンデマンド教材により集中的に習得する。 学生の希望によりマッチングした地域拠点病院・保健所で実習。
	災害救急・ 感染症コース	3年次	10人	<ul style="list-style-type: none"> 臨床医学系講義「救急医学」の中に、災害医療関連の講義1コマを組み込む。 夏期休業中に課外実習3コマを実施する；①津波関連施設の見学・体験、②避難所の設置・運営・応急手当、③避難所に関わる予防医学（感染症を含めて）。
三重大学	地域総合 診療コース	1年次～ 6年次	8人	<ul style="list-style-type: none"> 新医学専攻コース（1～6年次）、研究室研修（3～4年次）の枠組みで総合診療医養成を目的として、研究活動と能動的学習を拡充したコース。 4年次に学内での成果発表会で発表をおこなう。 6年間で1回以上の学会発表もしくは論文執筆をおこなう。
	災害救急・ 感染症コース	3年次～ 6年次	125人	<ul style="list-style-type: none"> PBLチュートリアル教育（3～4年次）において新興感染症事例を通して学ぶ。 感染症ユニット期間中に中部国際空港検疫施設での終日の実習（希望者20名）。 臨床実習前集中講義において感染症疫学シリーズを設定する。 全科ローテーション型臨床実習（4～5年次）・救急部ローテーションにおいて、感染症患者に対する救急対応をAR（Augmented reality 拡張現実）機器を活用して学習する。

I. 事業概要

3 長期滞在型クリニカルクラークシップ (LIC)

地域医療人材養成拠点病院で長期滞在型のクリニカルクラークシップをおこない、総合的な診療能力を身につけます。

大学名	対象学年 日程	人数 (年次)	内容
高知大学	6年次 4～7月 4週間以上	12人	<ul style="list-style-type: none">総合診療、救急、感染症など地域ニーズに応えられる総合的な臨床能力を身につける。外来・救急での初期対応から、入院診療、退院調整、等、一人の患者に継続的に関わる。救急、感染症などについて、オンラインでの指導、オンデマンド教材の視聴などにより学習する。
和歌山県立 医科大学	6年次 4～7月 3週間	25人	<ul style="list-style-type: none">入退院支援～在宅療養まで ICT システムを活用した多職種協働（情報共有、カンファレンス等）に参加する。大学病院・地域医療人材養成拠点病院との遠隔カンファレンス、地域医療人材拠点病院・診療所間のオンライン診療（Doctor to Doctor）、過疎地域の通院困難者を対象としたオンライン診療（Doctor to Patient with Nurse）など ICT を活用した診療に参加、見学する。
三重大学	6年次 4ヶ月間	4人	<ul style="list-style-type: none">院内での実習のみならず院外においても健康増進活動などの地域活動に関わる。

4 合同シンポジウム

年に1回、3大学合同でオンラインシンポジウムを開催します。ハイブリッド形式での開催とし、現地参加する各大学の学生、教職員が事業成果を発表したり、意見交換したりするなど交流を深める場とします。また、行政、地域医療機関、高校生などにも広く参加を呼びかけ、本プロジェクトの理解を進めるとともに、地域志向性の高い医学生の入学を促す効果も期待されます。

4. 期待される効果

地域医療に従事する医師の養成には、学生時代の地域医療に関する実習等を通じた地域医療マインドの涵養が重要であることが認識されています。本プロジェクトを通して、継続的な教育の質の向上とともに、地域に定着する医師の増加、分野横断的な診療科に進む医師の増加が期待されます。具体的には、地域ニーズの大きいものの十分に養成の進んでいない総合診療科、救急科、感染症科を選択する地域卒卒業医師が増加することを達成目標としています。

本プロジェクトは地域卒学生のみならず、興味のある医学生は誰でも参加可能です。多くの学生を迎え、6年間を通じ多様な学びを提供し、地域ニーズに応える医療人の養成を目指します。

5. 3大学の教育プログラムの実施概況（令和5年度）

教育プログラム		令和5年度計画 (工程表作成時)	履修・参加状況	学生・参加者の評価など
体験実習		3大学で計456名の実習を計画。	一部の実習がコロナの影響により中止となったため参加人数が予定より少し下回ったが、全体としては概ね計画通り450名が実習をおこなった。	本プロジェクトで実習した学生は、実習に対する満足度や報告会でのピア評価が高い傾向にある。
アクティブラーニングコース	地域総合診療	3大学で計34名の履修を計画。 大学間の学生相互交流、サイトビジットの実施も計画。	3大学で計24名の学生が履修した。 3大学交流事業として、令和5年5月に3大学の学生計9名が日本プライマリ・ケア連合学会学術大会に参加し、ポスターツアーを実施した。 令和5年8月に和歌山にて同コースのサイトビジットをおこない、高知・三重の教職員計6名が参加した。	一部のコースでは定員を上回る履修希望者があり、学生の関心を集めることに成功している。 大学間の相互交流により各大学の教育のノウハウを共有することができ、教育の質の向上につなげることができている。
	医療DX	高知大学で計5名の履修を計画。	1名の学生が研究班に属し履修した。令和5年6月にICTを活用した多職種WGに参加した。	地域の多職種との交流は、ICTを活用した多職種協働について理解でき学生の評価が高かった。
	災害救急・感染症	3大学で計405名の履修を計画。 大学間の学生相互交流も計画。	概ね計画通り387名の学生が履修した。 3大学交流事業として令和5年8月に高知にて津波避難タワー見学・避難所1泊体験実習を実施し、3大学の学生計18名が参加した。 令和6年2月に日本災害医学総会・学術集会に3大学の学生計11名が参加した。演題発表やポスター発表をおこなった。	3大学交流事業である津波避難タワー見学・避難所1泊体験実習は、参加学生からの評価が高かった。 日本災害医学総会・学術集会では3大学の学生がそれぞれの発表内容に対して活発な意見交換ができ、地域課題への理解を深めることができた。
長期滞在型 臨床クラークシップ		3大学で計29名の実習を計画。 学生相互派遣も計画。	計画を上回るのべ37名の学生が実習をおこなった。うち6名が学生相互派遣として県外の拠点病院で実習をおこなった。	本プロジェクトの拠点病院で実習した学生による評価では、指導体制等全ての項目に関して実習に対する評価が高かった。
合同シンポジウム		200名の参加を計画(三重大学主催)。	177名(うち現地参加者86名、オンライン参加者91名)が参加した。	参加者アンケートでの評価は高く、各プログラムとも「とても満足」「満足」をあわせて9割以上であった。

体験実習 アクティブラーニングコース 長期滞在型臨床クラークシップ

各大学の特色を活かしながら、e-learningの教育コンテンツの共同開発や学生・教員の相互交流などにより学びの多様性と質の向上を目指します。



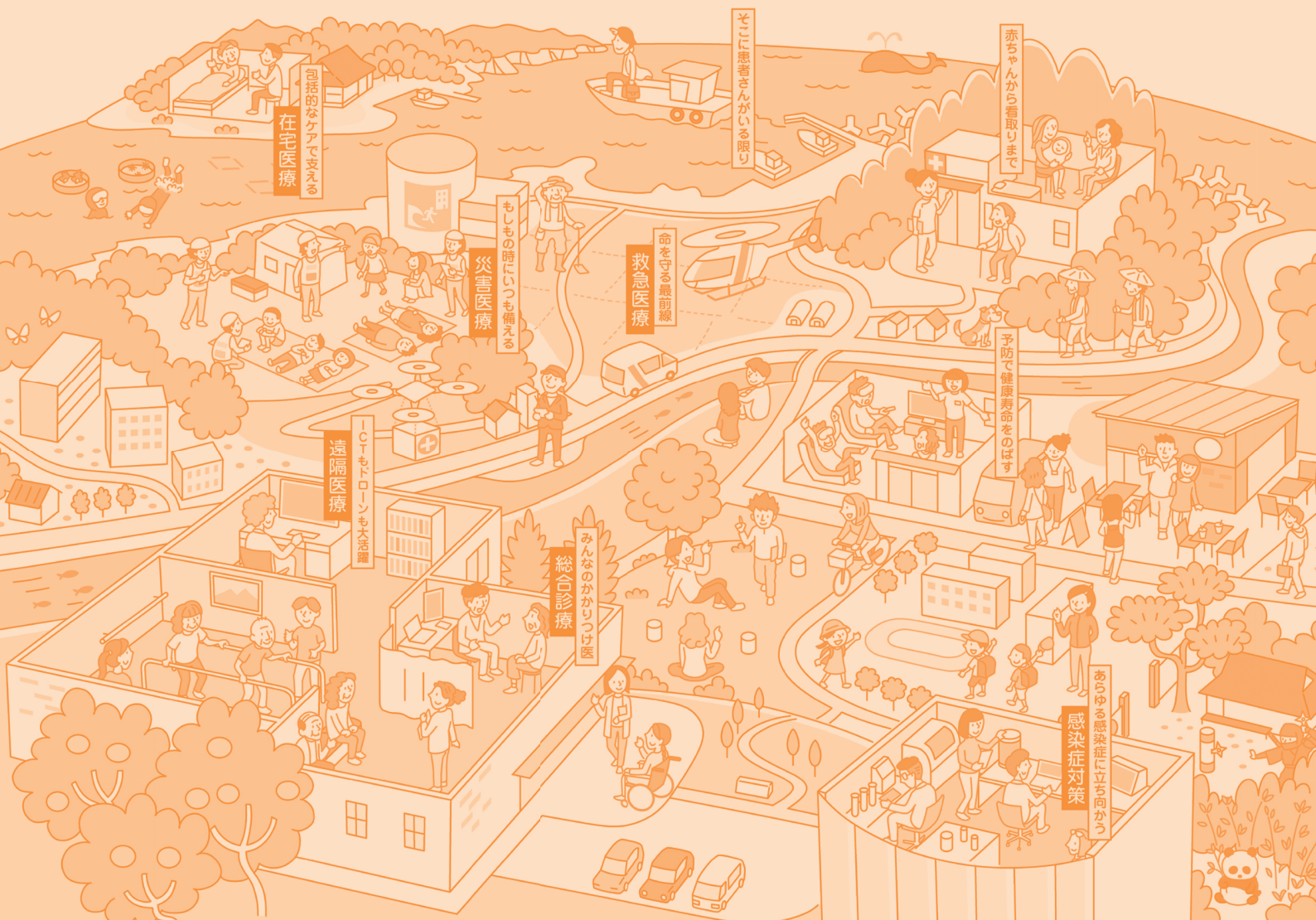
合同シンポジウム

年に一回開催される合同シンポジウムでは教育講演や活動報告、意見交換などを行い、共通する地域課題や得られた知見を共有。教育プログラムの強化を図ります。



II

事業実施・評価の体制



II. 事業実施・評価の体制

II 事業実施・評価の体制

1. 事業実施体制

各大学において、医学部長をリーダーとした実施体制を構築しています。各大学において事業の実務担当者、教務担当者、関連する講座の責任者、地域学生等からなる連携校事業推進委員会を年に2回以上開催し、事業の実施計画の策定、進捗状況の確認、プログラム評価、目標達成のベンチマークなどをおこないます。必要に応じて、地域医療人材養成拠点病院の担当者、行政関係者も委員に加えるものとします。事業の円滑な実施のために、実務を担当する教員および事務員を各1名配置します。

事業全体としては、各大学の医学部長、実務担当者からなる事業推進委員会を年1回開催し、大学間の調整の他、年間計画の策定、予算の執行状況の確認をおこないます。

■ 事業推進委員会

	氏名	役職
委員長	降幡 睦夫	高知大学医学部長
副委員長	伊東 秀文	和歌山県立医科大学医学部長
	堀 浩樹	三重大学大学院医学系研究科医学医療教育分野教授 三重大学医学部長、医学・看護学教育センター長
委員	瀬尾 宏美	高知大学医学部医学科長 高知大学医学部附属病院総合診療部教授
	阿波谷 敏英	高知大学医学部家庭医療学講座教授 高知地域医療支援センター副センター長
	矢野 有佳里	高知大学医学部高知地域医療支援センター特任教授
	上野 雅巳	和歌山県立医科大学地域医療支援センター長・教授
	村田 顕也	和歌山県立医科大学教育研究開発センター長・教授
	西村 有平	三重大学大学院医学系研究科統合薬理学分野教授 医学部教務委員長
	成田 正明	三重大学大学院医学系研究科発生再生医学分野教授 医学部入試委員長
	前田 博教	高知県立あき総合病院院長
	藤野 晋太郎	高知県健康政策部医療政策課課長

■ 令和5年度黒潮医療人養成プロジェクト事業推進委員会

日時：令和6年2月19日（月）17：00～18：00

開催方法：オンライン会議（zoom）

参加数：委員11人

■ 高知大学連携校事業推進委員会

	氏 名	役 職
委員長	降 幡 睦 夫	高知大学医学部長
委 員	瀬 尾 宏 美	高知大学医学部医学科長 高知大学医学部附属病院総合診療部教授
	藤 田 博 一	高知大学医学部附属医学教育創造センター長
	阿波谷 敏 英	高知大学医学部家庭医療学講座教授 高知地域医療支援センター副センター長
	宮 野 伊知郎	高知大学医学部医療学 / 予防医学・地域医療学分野（公衆衛生学）准教授
	西 山 謹 吾	高知大学医学部危機管理医療学講座特任教授
	宮 内 雅 人	高知大学医学部災害・救急医療学講座教授
	山 岸 由 佳	高知大学医学部臨床感染症学講座教授
	佐 田 憲 映	高知大学医学部臨床疫学講座特任教授
	矢 野 有佳里	高知大学医学部高知地域医療支援センター特任教授
	的 場 俊	高知県立あき総合病院総合内科部長
	川 村 昌 史	高知県立幡多けんみん病院副院長 内科部長（総括） 研修管理センター長
	片 山 正 彦	高知大学医学部・病院事務部部长
	秋 田 早央里	医学科 4 年生
	林 大 翔	医学科 3 年生
	小 島 佳 奈	医学科 2 年生
近 森 大 空	医学科 1 年生	

II. 事業実施・評価の体制

■ 和歌山県立医科大学連携校事業推進委員会

	氏 名	役 職
委員長	伊 東 秀 文	和歌山県立医科大学医学部長
副委員長	上 野 雅 巳	和歌山県立医科大学地域医療支援センター長・教授
	村 田 顕 也	和歌山県立医科大学教育研究開発センター長・教授
委 員	蒸 野 寿 紀	和歌山県立医科大学地域医療支援センター副センター長・講師
	中 村 有 貴	和歌山県立医科大学地域医療支援センター助教
	谷 本 貴 志	和歌山県立医科大学教育研究開発センター准教授
	森 めぐみ	和歌山県立医科大学教育研究開発センター助教
	廣 西 昌 也	和歌山県立医科大学附属病院紀北分院 分院長・教授
	井 上 茂 亮	和歌山県立医科大学救急・集中治療医学講座教授
	田 村 志 宣	和歌山県立医科大学救急・集中治療医学講座准教授
	中 島 強	和歌山県立医科大学救急・集中治療医学講座助教
	小 泉 祐 介	和歌山県立医科大学臨床感染制御学講座教授
	谷 口 善 郎	和歌山県立医科大学事務局長
	板 谷 耀 平	医学部 6 年生
	岩 田 拓 巳	医学部 5 年生
	北 畑 亮 歩	医学部 5 年生
	山 路 千 咲	医学部 5 年生
	三 住 晃 士	医学部 4 年生
	駿 田 直 俊	橋本市民病院院長
高 垣 有 作	国保すさみ病院院長	
中 紀 文	那智勝浦町立温泉病院院長	

■ 三重大学連携校事業推進委員会

	氏 名	役 職
委員長	西 村 有 平	三重大学大学院医学系研究科統合薬理学分野教授 医学部教務委員長
委 員	堀 浩 樹	三重大学大学院医学系研究科医学医療教育分野教授 三重大学医学部長 医学・看護学教育センター長
	松 岡 真 理	三重大学大学院医学系研究科小児看護学分野教授 看護学科教務委員長
	水 野 修 吾	三重大学大学院医学系研究科肝胆膵・移植外科学分野教授 医学部附属病院副病院長（教育・地域連携担当）
	鈴 木 圭	三重大学医学附属病院救命救急・総合集中治療センター長 教授
	山 本 憲 彦	三重大学医学部附属病院総合診療部長 教授
	岸和田 昌 之	三重大学医学部附属病院災害対策推進・教育センター長 准教授
	成 田 正 明	三重大学大学院医学系研究科発生再生医学分野教授 医学部入試委員長
	吉 山 繁 幸	三重大学大学院医学系研究科医学医療教育学分野准教授 医学・看護学教育センター
	森 尾 邦 正	三重大学医学部助教
	森 本 茉 鈴	医学科 5 年生
	池 山 陽 登	医学科 4 年生
	宮 崎 洸 匠	医学科 4 年生
	宮 園 翔 伍	医学科 2 年生
	宮 島 真 悟	医学科 2 年生
	伊 藤 圭 一	三重県立志摩病院内科部長
	内 堀 善 有	名張市立病院総合診療科部長
鈴 木 孝 明	紀南病院組合立紀南病院三重県地域医療研修センター紀南支部長	

II. 事業実施・評価の体制

2. 事業評価体制

毎年、各大学において自己点検評価をおこない、改善点を事業計画に反映させます。また、連携大学が相互にサイトビジットをおこないピア評価をおこないます。これらの自己評価を取り纏め、事業推進委員会に報告するとともに、外部委員、行政関係者を含む評価委員会の評価を受けるとします。評価指標として、プログラムの実施状況、履修した学生数、制作した e-learning 教育コンテンツの数等を用います。

■ 事業評価委員会

	氏名	役職
委員長	家保英隆	高知県健康政策部部長・医監
副委員長	野口晴子	早稲田大学政治経済学術院教授
委員	高村昭輝	富山大学医学部医学教育学講座教授
	倉本秋	一般社団法人高知医療再生機構理事長

■ 令和5年度事業評価委員会

日時：令和6年3月19日（火）18:00～19:00

開催方法：オンライン会議（zoom）

議事次第：1. 委員長挨拶

2. 委員紹介

3. 事業概要説明

4. 事業実施状況報告（各大学事業実施状況、大学間連携事業、学生の地域志向性アンケート調査、ウェブサイト）

5. 質疑、ご意見

〈評価委員からの主なご意見〉

- 距離の離れた3大学の協働・連携は大変だと思うが、大学同士のサイトビジットや学生が実際に他大学の実習へ参加するなど、相互乗り入れができていいるのは評価できる。
- 将来的なカリキュラムの相互乗り入れについての検討如何。→将来的には単位互換も検討したいと考えているが、現段階では課題があると認識している（事務局）。
- 他の地域での実習はストレスもかかると思うがモチベーションをあげる機会にもなると思う。行けなかった学生にも成果を伝えて感覚を共有するのが大事。
- 地域志向性アンケート調査について、このように年度や学年を追って数字にしておくことは大切。
- 昨年度の評価委員会での指摘事項（報告書の公表や学生委員の加入等）に対応できているのは評価できる。
- 補助事業終了後も取組が継続できるよう、地元の行政当局にも成果を伝え、連携をしていてもらいたい。

III

事業実施状況報告



III 事業実施状況報告

1. 教育プログラム

① 高知大学

人事および運営体制	
令和5年4月	令和5年度より本プロジェクトを担当する特任教授が着任
令和5年6月	令和5年度第1回連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況を確認
令和5年12月	令和5年度第2回連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況と来年度の準備状況を確認

教育プログラム進捗状況	
体験実習	
令和5年4月	幡多けんみん病院を訪問、実習に関する打ち合わせ
令和5年5月	あき総合病院を訪問、実習に関する打ち合わせ
令和5年9月	臨床体験実習Ⅱ(前半)実施 幡多けんみん病院で2年生10名が実習
令和5年9月	臨床体験実習Ⅱ(後半)実施 あき総合病院で2年生6名が実習
令和6年2月	臨床体験実習Ⅰ(前半)実施 幡多けんみん病院で1年生10名が実習 同日程で4年生3名が四万十市立市民病院で実習
令和6年2月	臨床体験実習Ⅰ(後半)あき総合病院で1年生7名が実習予定だったが新型コロナウイルス感染症の関係で中止
アクティブラーニングコース	
令和5年4月	履修学生確定、各研究班授業開始
〈地域総合診療コース〉2年生4名登録	
令和5年5月	第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会に学生4名が参加しポスターツアーを実施
令和5年8月	教職員3名が和歌山県を訪問し、アクティブラーニングコースの学生のヒアリングや施設見学、和歌山県立医科大学内でのサイトビジット会議をおこなった
〈医療DXコース〉2年生1名登録	
令和5年6月	嶺北地区高知家@ラインWG参加
〈災害救急・感染症コース〉2年生7名登録	
令和5年8月	南国市にて津波避難タワー見学実習、避難所1泊体験実習を実施(3大学学生計18名が参加)
令和6年2月	日本災害医学会総会第29回学術大会(京都)において、学生3名(一般口演2名、ポスター発表1名)が発表をおこなった。また、ポスター発表をおこなった3大学の学生の発表内容に対し、参加学生でディスカッションをおこなった(3大学学生計11名が参加)
長期滞在型クリニカルクラークシップ	
令和5年4月	LIC学生県外派遣について学務委員会で審議、クリニカルクラークシップ委員会・教授会で報告
令和5年4～7月	6年生のべ5名が幡多けんみん病院、あき総合病院の黒潮医療人養成コースで実習
令和5年5～7月	高知大学6年生計4名が三重県、和歌山県の地域医療人材養成拠点病院で実習
令和5年5月	教員、事務補佐員が紀南病院を訪問し、実習の様子を見学
令和5年6月	教員、事務補佐員が那智勝浦町立温泉病院を訪問し、実習の様子を見学
その他	
令和6年1月	第2回全国フォーラムに参加し、事業報告をおこなった
令和6年3月	第2回合同シンポジウムに参加(学生11名、教職員6名)
自己評価	
<p>実施体制は整ってきている。2月の体験実習の一部が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったほかには各プログラムとも概ね計画通りに進捗している。本プロジェクトのコースを実習した学生の満足度も高い傾向にある。大学間の交流事業も増え、ノウハウを共有するなど教育の質の向上につなげることができている。来年度は更に教育プログラムの対象者が増える見込みであり、引き続きプログラム内容の充実、教育の質の向上に努めたい。</p>	



体験実習(2年次)：あき総合病院(令和5年9月)



体験実習(1年次)：幡多けんみん病院(令和6年2月)



長期滞在型クリニカルクラークシップ(県内)：幡多けんみん病院(左)、
連携の大井田病院での離島実習(右)(令和5年4～5月)



長期滞在型クリニカルクラークシップ(県外)：那智勝浦町立温泉病院での実習(左)、
紀南病院での実習期間中、関連の紀和診療所での訪問診療(右)(令和5年5～6月)

Ⅲ. 事業実施状況報告

② 和歌山県立医科大学

人事および運営体制

令和5年4月 前年度と同様の体制で令和5年度事業を開始
令和5年6月 令和5年度第1回連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況を確認
令和5年7月 本プロジェクト担当事務補助員1名をパート採用
令和5年12月 令和5年度第2回連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況と来年度の準備状況を確認

教育プログラム進捗状況

体験実習

令和5年10月 黒潮体験実習(病棟実習Ⅰ)・2日間実施(2年生)※1:4病院での実習:6名参加
令和6年2月 黒潮体験実習(病棟実習Ⅱ)・2日間実施(3年生)※2:3病院での実習:6名参加
※1 橋本市民病院・国保すさみ病院・那智勝浦町立温泉病院・和歌山県立医科大学附属病院紀北分院(紀北分院)
※2 橋本市民病院・国保すさみ病院・那智勝浦町立温泉病院

アクティブラーニングコース

〈地域総合診療コース〉

令和5年4月 履修学生確定(1年生)、以後合計5回学生・教員ミーティングを実施
令和5年7～8月 早期体験実習・5日間実施 ※4病院における実習:4名参加
サイトビジットの一環で学生へのヒアリング、施設見学を実施(橋本市民病院・紀北分院)
高知大学・三重大学の教職員と本学教職員でサイトビジット会議開催

〈災害・救急コース〉

令和5年6月 黒潮災害救急講義(3年生)
令和5年7月 黒潮災害救急実習・3日間実施(3年生)
和歌山ろうさい病院:4名参加、南和歌山医療センター:4名参加
令和5年9月 地域マインド教育Ⅰ～Ⅳで黒潮災害救急の実習成果について実習参加学生が発表
令和5年12月 黒潮感染症講義(4年生)
令和6年2月 第29回日本災害医学会に学生2名、教員2名が参加

長期滞在型クリニカルクラークシップ

令和5年4月10日～4月28日 国保すさみ病院・那智勝浦町立温泉病院・紀北分院:5名参加
令和5年5月15日～6月2日 ※4病院:7名参加
令和5年6月5日～6月23日 ※4病院:7名参加
令和5年6月26日～7月14日 ※4病院:7名参加
高知大学6年生・三重大学6年生を和歌山県内の地域医療人材養成拠点病院で受け入れ
LIC 振り返り・実習報告会を週1回木曜日に開催、合計12回実施(一部高知大学・三重大学学生、教員も参加)
令和5年6月 LIC 学生県外派遣について教授会で承認
令和6年2～3月 LIC 学生県外派遣への説明会開催

その他

令和5年5月 第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会に学生3名、教員1名参加
令和5年8月 高知県南国市での津波避難タワー見学実習、避難所1泊体験実習に3年生5名、4年生2名、教員3名参加
令和6年1月 第2回全国フォーラム教員1名が参加
令和6年3月 第2回合同シンポジウムに学生5名、教員6名が参加

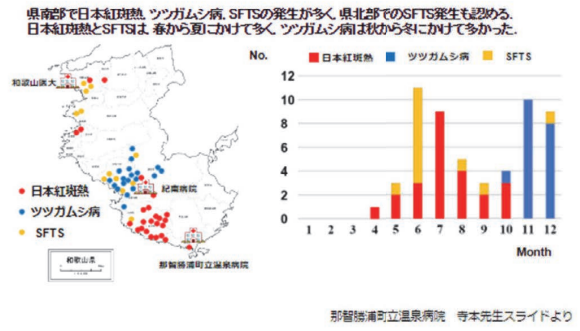
自己評価

実施体制は整ってきており、各プログラムとも概ね計画通りに進捗している。長期滞在型クリニカルクラークシップでは、学生事前アンケートを実施し、実習前に各地域医療人材養成拠点病院の実習コーディネータと学生が事前ミーティングすることで、円滑に実習が進められた。また、振り返り・実習報告会を週1回開催し、実習の状況について定期的な確認を行った。学生県外派遣については教授会で承認を得るなど体制整備ができ、令和6年度の派遣につながった。アクティブラーニングコース(地域総合診療コース)は履修学生を確定できたものの、指導体制が十分に確立できていないため、来年度に向けた体制整備が必要である。災害・救急コースは県内病院での実習を予定通り実施した。2・3年生の体験実習については目標通りの数の学生が参加したが、さらに学生が興味を持てるようなプログラムとなるよう改善したい。

長期滞在型クリカルークシップ



LIC 振り返り・実習報告会（令和5年4月(左：Zoom ミーティング)、7月(右：学生実習スライド)）



紀北分院の訪問診療に同行（令和5年5月）

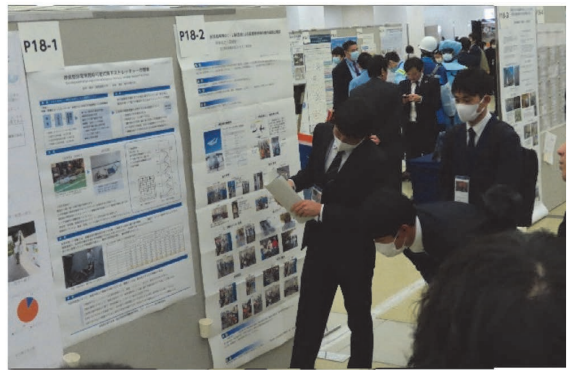


国保すさみ病院でリハビリ見学（令和5年6月）

アクティブラーニングコース



地域総合診療コースでのポケットエコーの活用



災害・救急コースでの日本災害医学会参加

体験実習



橋本市民病院での学生指導の様子

Ⅲ. 事業実施状況報告

3 三重大学

人事および運営体制

令和5年5月	令和5年度第1回連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況確認
令和5年6月	令和5年度第1回3大学シンポジウムワーキングにおいて、本学主催シンポジウム進捗状況・準備状況確認
令和5年7月	令和5年度第2回3大学シンポジウムワーキングにおいて、本学主催シンポジウム進捗状況・準備状況確認
令和5年9月	令和5年度第3回3大学シンポジウムワーキングにおいて、本学主催シンポジウム進捗状況・準備状況確認
令和6年1月	令和5年度第4回3大学シンポジウムワーキングにおいて、本学主催シンポジウム進捗状況・準備状況確認

教育プログラム進捗状況

体験実習

令和5年 8月～ 9月	「医療と社会」地域基盤型保健医療実習（1年、市町担当者や住民様等にインタビュー）
令和5年 5月～ 12月	「医療と社会」地域基盤型保健医療実習（2年、地域貢献活動）
令和5年 10月	地域基盤型保健医療実習終了後の振り返り（1年）
令和6年 2月	地域基盤型保健医療実習報告会を実施（1、2年）

アクティブラーニングコース

令和5年5月	第14回日本プライマリ・ケア連合学会大会において、3大学の学生、教員が学会場でポスターツアーを行い、活発な意見交換を行った（三重大学から学生2名、教員1名が参加）。また、地域総合診療コース学生3名が口頭発表を行った。
令和5年5月30日	附属病院大規模防災訓練打ち合わせ
令和5年6月 6日	附属病院大規模防災訓練打ち合わせ
令和5年6月20日	附属病院大規模防災訓練打ち合わせ
令和5年8月1日、2日	教職員3名が和歌山県を訪問、施設見学・和歌山県立医科大学でのサイトビジット会議参加
令和5年8月	附属病院大規模防災訓練（多数傷病者受け入れ訓練）打ち合わせ
令和5年8月26日、27日	高知大学津波避難タワー見学実習、避難所1泊体験実習（医学1年生4名、看護3年生2名、教員1名）
令和5年9月20日	セントレア 中部空港検疫所見学実習参加（3年生16名）。
令和5年9月23日	災害救急コースとして、附属病院大規模防災訓練に学生（医学：3年生3名、4年生1名、5年生120名、看護：4年生1名）が参加。津波被害時の病院搬送机上訓練、担架搬送訓練、エアーストレッチャー使用の階段引き上げ訓練、AR機器を活用した浸水体験を行った。
令和5年10月	研究室研修開始（3年生）総合診療部において地域総合診療コースでは6名（新医学専攻コースを含む）を受け入れた。
令和5年11月15日	全学津波避難訓練打ち合わせ
令和5年12月10日	三重大学・防災アカデミー講演での説明および実技指導 災害救急コースとして、三重大学・防災アカデミー（対象：三重県民、名張）にて前半の講演後に、後半に医学3年生（2名）が約30名の参加者に対してトリアージタッグ装着、止血、三角巾の使用、搬送の方法などについて説明および実技指導を行った。
令和6年2月	第29回日本災害医学会（2月22日～2月24日）において、3大学の教職員および学生（19名（学生11名）：高知大学9名（6名）、和歌山医大4名（2名）、三重大学6名（3名））がポスターおよび口演発表会前に事前集合し、意見交換を行う。なお、三重大学生は3名が発表した（口演2演題、ポスター1演題）
令和6年3月1日	シンポジウム前日施設見学ツアー（伊勢市防災センター） （高知大学9名（学生6名）、和歌山医大9名（4名）、三重大学19名（13名））
令和6年3月	新医学専攻コース 総合診療部において地域総合診療コース修了（3名）

長期滞在型クリニカルクラークシップ

令和5年5月 三重大学6年生1名が和歌山県の地域拠点病院（那智勝浦町立温泉病院）で実習（1週間）
令和5年7月 三重大学6年生1名が和歌山県の地域拠点病院（紀北分院）で実習（1週間）
令和5年8月 （連携校事業推進委員会）令和6年度地域医療人材養成拠点病院の受入準備を確認。

その他

令和6年1月 第2回全国フォーラムに出席（教員1名）
令和6年3月 第2回合同シンポジウム開催
（現地参加86名 高知大学17名、和歌山医大11名、三重大学43名・オンライン参加91名）

自己評価

連携校事業推進委員会における活発な議論とともに、体験実習、アクティブラーニングコース、長期滞在型クリニカルクラークシップは計画に沿って着実に進捗している。また、令和5年度の3大学シンポジウムを令和6年3月2日に開催し、シンポジウム前日の施設見学ツアーとあわせ、3大学の更なる連携強化を進めることができた。

1) 体験実習



2年次の地域貢献活動として健康教室を行い、学生たちが地域住民の血圧測定を行った（令和5年8月）



学生たちが健康体操の紹介を行った（令和5年10月）



健康レンビ動画を作成し、地域で上映を行った（令和5年11月）

Ⅲ. 事業実施状況報告

2) 院内防災訓練 (令和5年9月)



多数傷病者受入訓練 (搬送伝令役)



多数傷病者受入訓練 (医療者補助役)



多数傷病者受入訓練 (傷病者役)



iPadを使用したAR浸水体験 (講義中)



iPadを使用したAR浸水体験 (体験中)



iPadを使用したAR浸水体験 (iPad画面)



エアーストレッチャー (講義中)



エアーストレッチャー (搬送訓練中)

3) 三重大学・防災アカデミー講演での説明および実技指導（令和5年12月）



トリアージタグの装着方法の実演



ガーゼ圧迫により止血の実技指導



シーツを利用した傷病者搬送の実演



セミナー関係者（演者、実技説明者、補助者ら）

4) 施設見学ツアー 伊勢市防災センター（令和6年3月1日）



Ⅲ. 事業実施状況報告

5) 第2回合同シンポジウム (令和6年3月2日)



2. 大学間連携事業

① e-learning

(1) e-learning について

黒潮医療人養成プロジェクトでは、教育プログラムの学習の補助として、e-learning コンテンツを制作してまいります。令和5年度以降は毎年10コンテンツ以上を制作することを目標としています。

(2) 公開範囲

制作したコンテンツは自大学のLMS(3大学ともmoodleを使用)で履修学生に提供します。高知大学でコンテンツの管理をおこない、他大学での利用を許諾しているコンテンツはウェブサイトでも公開します。ウェブサイト上のコンテンツはID、パスワードを付与された連携校の履修学生、関係者(研修医、一般学生、指導医等)も視聴することが可能です。今後、ポストコロナGP e-learning システムの活用も検討しています。

	履修学生 (自大学)	履修学生 (連携校)	学生 (他の拠点)	関係者 (研修医、一般学生、 指導医、等)
moodle	○			
黒潮医療人養成プロジェクト ウェブサイト	○	○		○
ポストコロナ GP e-learning システム	○	設定により	設定により	設定により

(3) 制作済みコンテンツ

作成大学	カテゴリー	コ ン テ ン ツ 名	対象学年	作成年度	作成数
高知大学	総合診療	地域医療と臨床研究	1・2年生	令和4年度	7
		地域の歩き方	全学年	令和5年度	
		せん妄	全学年	令和5年度	
		ICTを活用した多職種協働～高知の取り組み概要～	全学年	令和5年度	
	災害救急・ 感染症	高知県の南海トラフ地震対策	全学年	令和5年度	
		津波肺 避難所での感染対策(呼吸器感染症対策編)	全学年	令和5年度	
三重大学	総合診療	Pubmedを用いた文献検索	全学年	令和4年度	6
		地域アセスメント	1・2年生	令和5年度	
	災害救急・ 感染症	外傷の応急処置	全学年	令和5年度	
		担架の使用方法	全学年	令和5年度	
		籠城時病院避難二次トリアージ トリアージタグの使用方法	全学年	令和5年度	
和歌山県立 医科大学	総合診療	総合診療ことはじめ	1～4年生	令和4年度	4
	災害救急・ 感染症	避難所での支援活動の中での感染防御の注意点～和歌山県 ver.～	全学年	令和4年度	
		ダニ媒介感染症・結核の基礎知識	全学年	令和5年度	
		災害医療	3年生	令和4年度	

令和6年3月現在、計17コンテンツを制作しています。

Ⅲ. 事業実施状況報告

ウェブサイト公開 e-learning コンテンツ一覧

■ 総合診療



地域医療と臨床研究



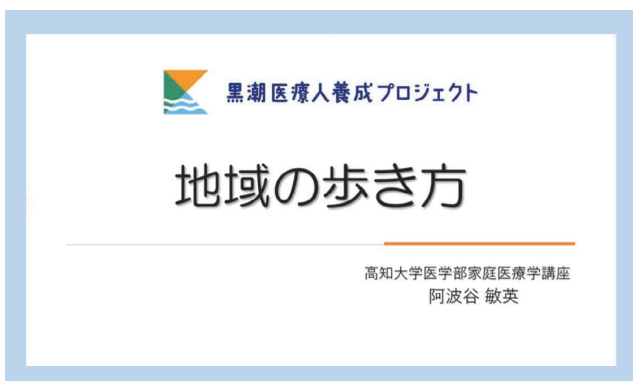
総合診療ことはじめ



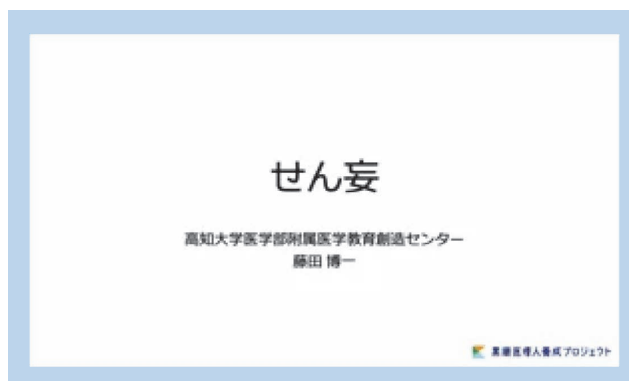
Pubmedを用いた文献検索



地域アセスメントー地域を深く知ろうー

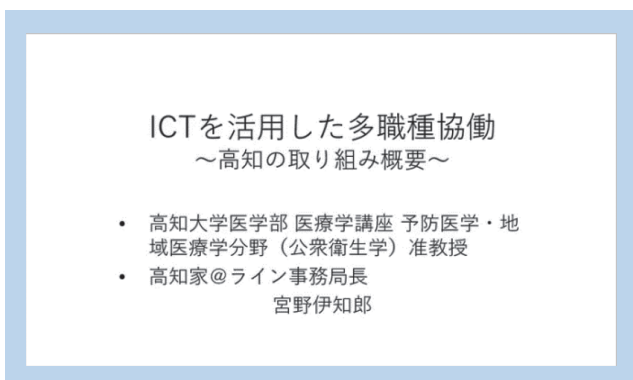


地域の歩き方



せん妄

■ 災害救急・感染症



ICTを活用した多職種協働～高知の取り組み概要～



災害医療

ダニ媒介感染症・結核の 基礎知識

和歌山県立医科大学
臨床感染制御学講座
小泉祐介

ダニ媒介感染症・結核の基礎知識

避難所での支援活動の中での感染防御の注意点 ～和歌山県 ver.～

和歌山県立医科大学 救急集中治療医学講座
田村 志宣



避難所での支援活動の中での感染防御の注意点～和歌山県ver.～

高知県の南海トラフ地震対策

2023.5 高知大学医学部 危機管理医療学
西山謹吾

高知県の南海トラフ地震対策

避難所での感染対策 (呼吸器感染症対策編)

高知大学医学部臨床感染症学講座
山岸由佳

避難所での感染対策（呼吸器感染症対策編）



トリアージタグの使用方法



籠城時病院避難二次トリアージ



担架の使用方法



外傷の応急処置

Ⅲ. 事業実施状況報告

(4) コンテンツ制作計画

1) 体験実習

	令和5年度	令和6年度
高知大学	未作成	未定
和歌山県立医科大学	未作成	未定
三重大学	地域アセスメントー地域を深く知ろうー	未定

2) アクティブラーニングコース（地域総合診療、医療DX）

	令和5年度	令和6年度
高知大学	地域の歩き方 ICTを活用した多職種協働～高知の取り組み概要～	研究の基本骨格を組み立てる ICTを用いた連携の実際
和歌山県立医科大学	未作成	未定
三重大学	地域アセスメント	未定

3) アクティブラーニングコース（災害救急・感染症）

	令和5年度	令和6年度
高知大学	高知県の南海トラフ地震対策 津波肺 避難所での感染対策（呼吸器感染症対策編）	高齢者と災害関連死 避難所での感染対策（胃腸炎）
和歌山県立医科大学	災害医療 ダニ媒介感染症・結核の基礎知識 避難所での支援活動の中での感染防御の注意点～和歌山県 ver.～	災害時の保健医療支援活動を担う様々な医療チームについて 災害時における避難所での手指衛生 ウイルス性胃腸炎（ノロウイルス・ロタウイルスなど）
三重大学	外傷の応急処置 籠城時病院避難二次トリアージ 担架の使用法 トリアージタグの使用法	災害対策本部設立訓練 多数傷病者受入れエリア活動訓練 学生参加訓練 三重県の南海トラフ地震対策 破傷風の予防と基礎知識

4) 長期滞在型クリニカルクラクシップ

	令和5年度	令和6年度
高知大学	せん妄	介護保険の基礎
和歌山県立医科大学	未作成	未定
三重大学	未作成	総合診療と相談中

2 合同シンポジウム

第2回 合同シンポジウム

概要と目的	3大学の教職員、学生、地域医療人材養成拠点病院関係者、行政が本プロジェクトの意義を確認、相互に交流するとともに、広く地域に対し情報発信する
日 時	令和6年3月2日（土）9:00～13:00
場 所	三重大学 地域イノベーションホール（Zoomによるハイブリッド開催）
主 催	三重大学医学部
後 援	三重県、公益社団法人三重県医師会、一般社団法人三重県病院協会
参 加 者	177人（現地86人、オンライン91人）
次 第	
9:00	開会挨拶 三重大学医学部長 堀 浩樹 / 三重大学学長 伊藤 正明
9:05	祝 辞 三重県知事 一見 勝之様
9:10	特別講演① 『地元が担うビルド・バック・ベター(創造的復興)！ －黒潮を介して育つ若い世代の共感と連帯－』 座長：三重大学医学部長 教授 堀 浩樹 講師：日本WHO協会 理事長 中村 安秀氏
10:15	休 憩
10:20	特別講演② 『地域基盤型医療者教育～地域で学べるこんなことあんなこと～』 座長：山本 憲彦 講師：富山大学医学教育学講座 教授 高村 昭輝氏
11:25	休 憩
11:30	取り組み事例報告 『防災訓練』 岸上 僚一（3年） 『エアーストレッチャー搬送』 森井 啓太（3年） 『iPadによるAR浸水没入体験』 村瀬 翔来（3年）
11:45	取り組み事例報告 『全方位カメラを用いたER教育システムの導入』 三重大学医学部附属病院 救命救急・総合集中治療センター 教授 鈴木 圭
12:00	取り組み事例報告 『中部国際空港検疫所を見学して』 中西 なつみ（3年）水谷 友香（3年）
12:15	休 憩
12:20	グループディスカッション 『津波被災時は籠城体制が敷かれますが、食料・医薬品の枯渇、水道・電気などのインフラ回復が見込めない場合、病院避難の必要性があります。限られた医療資源と搬送手段のもと、患者の重症度や安定度を配慮して、避難の優先順位をつける机上訓練を行います。』
12:55	次回開催地挨拶 和歌山県立医科大学附属病院 紀北分院 分院長 廣西 昌也
13:00	閉会挨拶 三重大学医学部長 堀 浩樹

Ⅲ. 事業実施状況報告

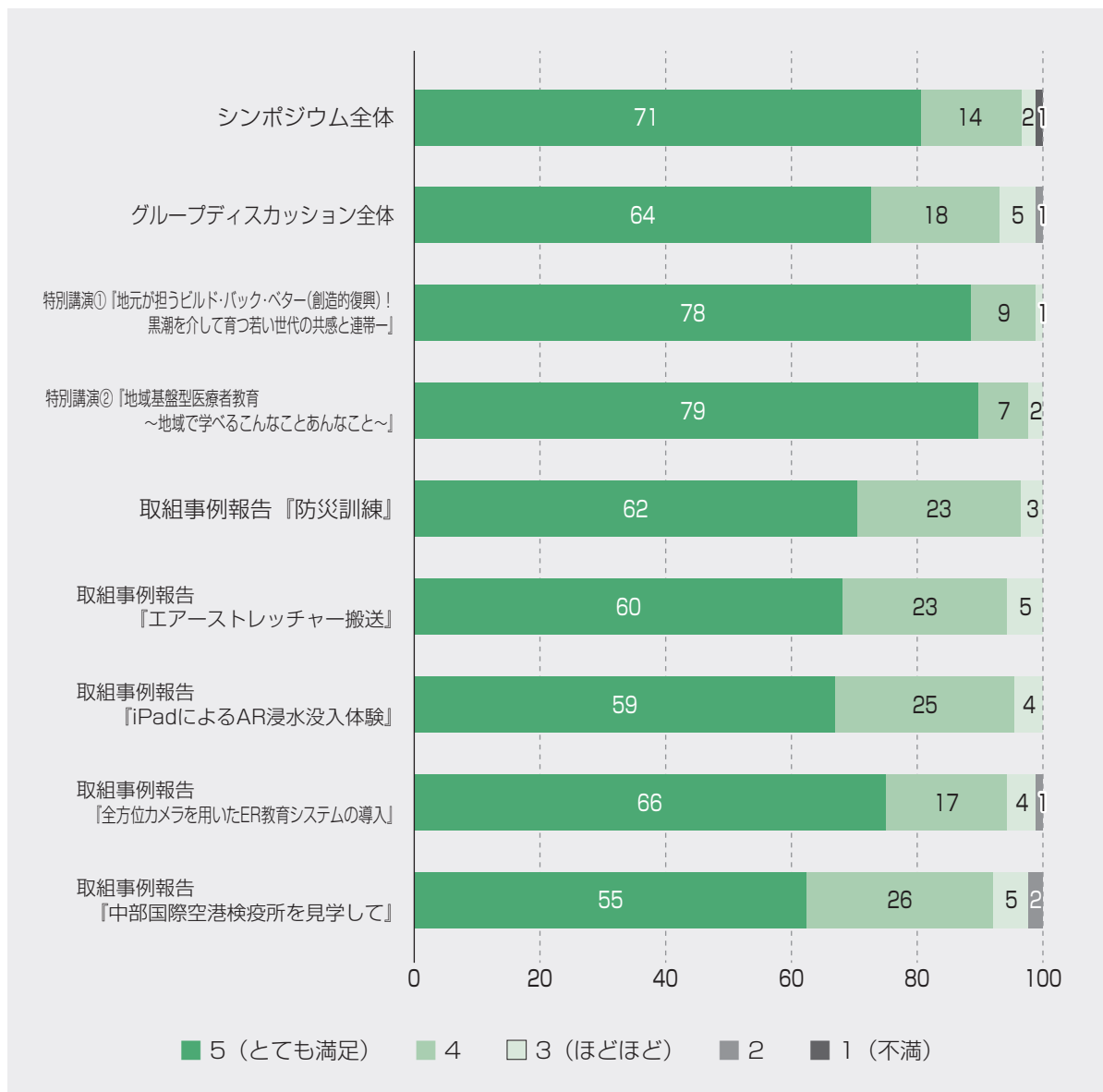
参加者内訳

	計	三重	高知	和歌山	その他(不明含む)	その他内訳
医 学 生	87(58)	16(1)	68(57)	3(0)		
大 学 関 係 者	56(14)	29(1)	14(8)	13(5)		
高 校 生	12(4)	8(0)	1(1)	3(3)		
地 域 医 療 機 関	9(3)	6(1)		3(2)		
県 庁 職 員	3(2)	1(0)	1(1)	1(1)		
その他(不明含む)	10(10)				10(10)	
計	177(91)	60(3)	84(67)	23(11)	10(10)	

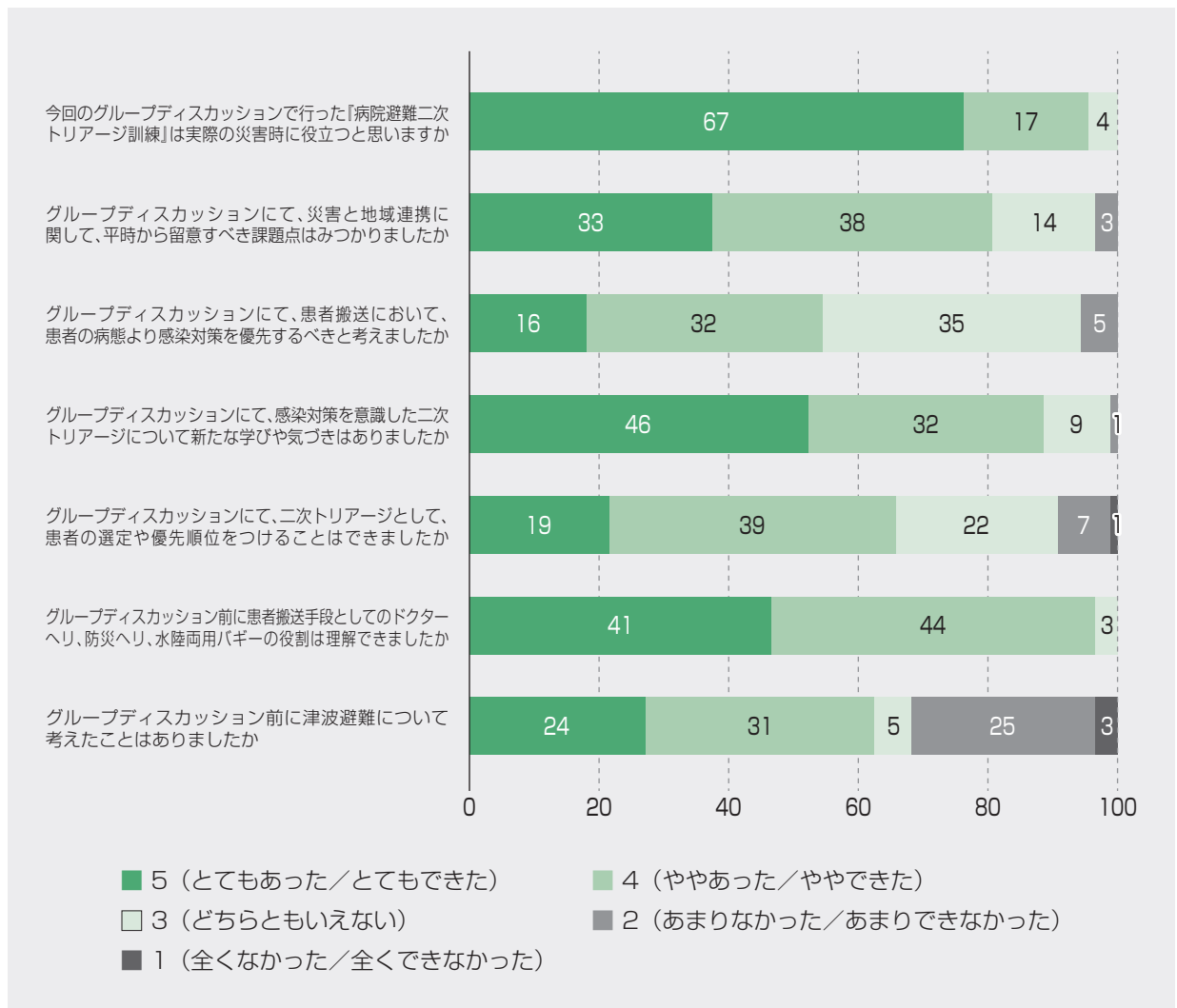
参加者アンケート

回答者 88 人（医学生 50、大学教職員 26、高校生 10、地域医療機関 2）

【各プログラム満足度】



【グループディスカッション満足度『津波被災時は籠城体制が敷かれますが、食料・医薬品の枯渇、水道・電気などのインフラ回復が見込めない場合、病院避難の必要性があります。限られた医療資源と搬送手段のもと、患者の重症度や安定度を配慮して、避難の優先順位をつける机上訓練を行います。』】



自由意見

【グループディスカッション全体】

医学生

- 助かる見込みなしと判断しなければならない時がくることを医師の方から学びました。
- もう少し直前の時間のゆとりをいただきたいかった。
- 優先度がトリアージの症状の程度と直結しないというところに救急医療の深さを感じました。
- 実際に災害が起きて情報が錯綜する中で今回のような順位付けを実施するには最終決定権をもつ人の責任がとても重要だと気づいた。
- 実際に体験、考えることができて良かったです。

他 41 件

大学教職員

- 学生の気づきを促すよい教育手法と思いました。
- 情報量が多く、把握するまでの時間がもう少しあると良いと思いました。
- 医療資源、時間、秒単位で変わる患者の状態など、総合的に瞬時に判断する必要がある。

Ⅲ. 事業実施状況報告

- グループディスカッションの中継はあまりなかった試みではないかと思いました。ライブ感があって良かったと思います。天井からの机上の動画、参加者を映した動画の2画面で同時配信できるとわかりやすかったかもしれないと思いました。
- 話を聞くだけでなく、実際に自分の意見を発言したりする事で、主体的に学ぶことができているようだった。また、実際の状況に近い形で訓練ができているのがいいと思った。

他 18 件

高校生

- トリアージにはただその人の病気、重症度を見るだけでなく、感染症や薬の状態、薬によって回復する可能性など様々なことを多角的に見て判断しないといけないのがすごく大変だと思いました。
- 三重大医学部に行きたいという思いが高まった。
- 災害時は時間の限られた中で搬送先を決める必要があるということを感じた。
- この訓練は日々行うべきなのではないのかと思った。この患者さんはこういう症状をもっているから先に運ばなければという医学の知識を使って判断するから勉強になり、短い時間の中での優先順位を決めるのだから、日々訓練をすることで実際災害が起きた時、少しでも冷静に判断を行えると思うから。
- 聞いた事のない病気や症状も多かったけど、楽しむことが出来ました。もっと時間をかけて軽症の人まで考えたり、他の班の意見を見たりしたかったです。

他 5 件

【シンポジウム全体】

医学生

- 演者の位置とテーブルの構造上、演者の先生にやや背中を向ける形になったのが申し訳なかった。学生の発表はよくまとまっていてわかりやすかったと思う。
- 中村先生から周りの人を愛する受け入れる姿勢の大切さをも学びました。私の進む道を示してくださっているとこれからも背中を追いかけていきます。語学もっと勉強します。
- タイムスケジュール通りに進んで欲しかったです。
- 今回のシンポジウムで様々な立場の方々からお話を伺い、幅広い見識を身につけることができました。今後、今回のシンポジウムを思い出しながら、医学に励んで参ります。ありがとうございました。
- 国際的な医療共同や、被災地での実体験などここでしか聞けないような貴重なお話が聞けてとてもありがたかったです。お忙しい中ありがとうございました。

他 5 件

大学教職員

- 懇親会の時間が短いと感じた
- 時間が足りなかったです。有難うございます。
- またみんなで勉強したいと思います。ありがとうございました。
- とても良かったです、有難うございました。
- 時間が足りなかった。指導者に医学部長なども加わり、全学体制で行っていたことは素晴らしいと思いました。

高校生

- 地域医療に貢献できるよう一年間頑張ります。
- 今回のシンポジウムで、この太平洋沿岸で災害が起きたとき、あるいは起こる前からどう行動するのがよいかを考えることができた。4月からは和

歌山県立医科大学で学び始めるので、来年のシンポジウムには医学部生として関わりたい。

- 貴重なお話をたくさん聞けて、大変ためになる経験となりました。特にグループディスカッションが面白かったです。

第2回 合同シンポジウム 当日の様子

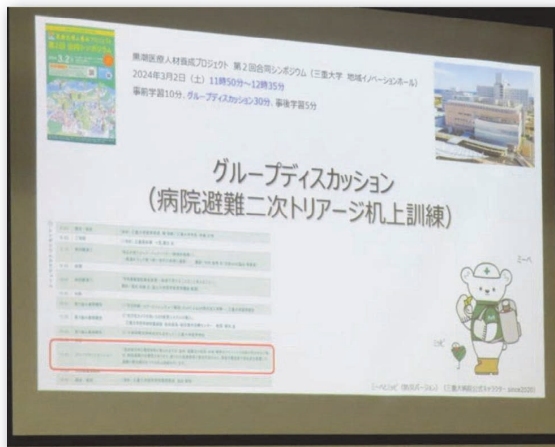


Ⅲ. 事業実施状況報告





Ⅲ. 事業実施状況報告



第2回 合同シンポジウム掲載記事（三重テレビ放送ニュース令和6年3月4日配信記事）

三重テレビ放送ニュース

新時代の地域医療人材の育成を目指して 高知・和歌山・三重の3つの大学による合同シンポ



地域医療に関わる人材の養成を共同で進める、三重大学医学部など3つの大学による合同シンポジウムが2日、三重県津市の三重大学で行われました。

過疎化・高齢化や遠隔地の医療確保、南海トラフ地震など多くの課題を共有する三重大学と高知大学、そして和歌山県立医科大学が「黒潮医療人養成プロジェクト」と名付けて昨年度立ち上げたもので、地域の拠点病院での実習や、共同開発したオンライン診療などの学習を通じて人材育成を目指します。

2日は、3つの大学の医学部生と教職員のほか、医療関係者などが参加しました。

三重大学の堀浩樹医学部長は「地域医療の向上に貢献する医療人になるための知識と能力を高めてほしい」とあいさつしました。

日本WHO協会の中村安秀理事長が災害医療をテーマに特別講演を行い、世界各国の避難所での体験を交えながら、年齢や性別、人種による格差を生まない医療支援の提供や、被災した医療者への支援などを提言しました。

このほかにも、富山大学教授による地域医療に関する特別講演や、三重大学の医学部生による取り組み事例の報告などが行われました。

第2回 合同シンポジウム ポスター

地域から、日本の医療の未来を描く

黒潮医療人養成プロジェクト
第2回 合同シンポジウム

2024.3.2(土) 9:00~12:45 0:30~受付開始
三重大学 地域イノベーションホール
三重県津市黒潮町黒潮1511番地

参加無料

会場参加 オンライン参加 お申し込みはこちら →

本シンポジウムはハイブリット形式で開催いたします。会場でのご参加・オンラインでのご参加のどちらかを選択いただけます。 | 参加申し込み期間
お近くの方は会場へお越しください。 | 2024.2.16(金)

黒潮医療人養成プロジェクト
WEBサイト
はこちら →

【主催】三重大学医学部、【協賛】三益薬業、公益社団法人三益薬業協会、一般社団法人三益薬業協会、株式会社（株）新野、伊勢新聞社、春日新聞社、中日新聞社、徳島新聞社、中興新聞社、所沢新聞社、事業部、同業連合社、CHCテレビ、TOKAI RADIO、三重テレビ放送、中京テレビ放送、三重エフエム放送

Ⅲ. 事業実施状況報告

3 学生相互派遣・交流

体験実習

- 大学により時期とパターンが以下のように異なるため、学生の相互受入は難しい。
 【高知】2023年9月（2年次3日間）、2024年2月（1年次3日間）
 【和歌山】2023年10月（2年次2日間）、2024年2月（3年次2日間）
 【三重】1年次：地域の医療の問題点を抽出し3か月かけて調査／2年次：1年次に抽出した問題に介入する。
 ● 年度末のオンライン報告会で好事例をそれぞれプレゼンテーションすることを検討する。

アクティブラーニングコース

<p>地域総合診療 医療 DX</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和5年5月14日、第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会において、ポスターツアーを実施した。3大学の学生9名（高知大学4名、和歌山県立医科大学3名、三重大学2名）が参加した。ポスターツアーに先立ち、高知大学で制作した動画を三重大学、和歌山県立医科大学の学生にも視聴してもらい、事前準備をおこなった。 ● 令和6年3月のオンラインシンポジウム（三重大学が担当）に3大学の学生が集合し、活動、研究内容を持ち寄り、発表する。1大学あたり教員3名、学生5名。 ● 令和6年度は6月の日本プライマリ・ケア連合学会学術大会において、各大学の学生が演題発表をおこない、相互交流を深める予定。
<p>災害救急・ 感染症</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和5年8月26～27日、津波避難タワー見学実習、避難所1泊体験実習を実施した。参加学生は高知大学6名、三重大学5名、和歌山県立医科大学7名（3大学計18名）。 ● 令和6年2月23日～24日、第29回日本災害医学会総会・学術集会（京都）において、3大学の学生11名（高知大学6名、和歌山県立医科大学2名、三重大学3名）が参加し、うち6名が一般口演発表とポスター発表をおこなった。また、ポスター発表をおこなった3大学の学生の発表内容に対し、参加学生11名でディスカッションをおこなった。 ● 令和6年度は高知県総合防災訓練にあわせ、5月に3大学学生実習をおこなうことを企画する。また、3月の日本災害医学会総会・学術集会（愛知）後に相互発表会をおこなう予定。

アクティブラーニングコースでの相互交流の様子



地域総合診療コースにて3大学で日本プライマリ・ケア連合学会学術大会に参加し、ポスターツアーを実施（令和5年5月）。



災害救急・感染症コースにて3大学で日本災害医学会総会・学術集会に参加し、学生が演題発表をおこなった（令和6年2月）。

アクティブラーニング（災害救急・感染症コース）での相互交流の様子（令和5年8月）

高知県南国市にて3大学合同の津波避難タワー見学実習を実施。



南国市にある日本最大級の津波避難タワーの構造等の説明を市の職員から受け、2階の備蓄倉庫等も見学。

Ⅲ. 事業実施状況報告

アクティブラーニング（災害救急・感染症コース）での相互交流の様子（令和5年8月）

高知県南国市にて避難所1泊体験実習を実施。



三角巾実習



デジタル簡易無線訓練



iPadを使用したAR浸水体験



エアーストレッチャーでの搬送訓練



災害時に役立つロープワークの体験



非常食の調理



非常食での夕食



簡易ベッド等の組み立て

長期滞在型臨床クラークシップ

- 令和5年度は各大学から以下のように学生の相互派遣をおこなった。

【高知大学 → 和歌山県】

那智勝浦町立温泉病院 令和5年6月5日～30日 1名
和歌山県立医科大学附属病院紀北分院 令和5年6月5日～30日 1名

【高知大学 → 三重県】

組合立紀南病院 令和5年5月8日～6月2日 1名
県立志摩病院 令和5年7月3日～28日 1名

【三重大学 → 和歌山県】

那智勝浦町立温泉病院 令和5年5月22日～26日 1名
和歌山県立医科大学附属病院紀北分院 令和5年7月10日～14日 1名

- 令和6年度の相互派遣に関しては、令和5年11月より、各大学で県内の実習希望調査が開始されるのにあわせて、調整を開始した。令和6年度の県外拠点病院への派遣は、計13名（高知大学5名、和歌山県立医科大学7名、三重大学1名）となる見込みである。
- 令和5年度は和歌山県立医科大学がオンラインで実施する県内の実習オリエンテーション、実習振り返りに高知大学教員も参加した。令和6年度は、県外大学の学生を受け入れる際に実習オリエンテーション、実習振り返りをオンラインでおこなうこととし、派遣元、派遣先の大学、拠点病院の教職員、指導医が参加する機会を準備する。

長期滞在型臨床クラークシップでの学生相互派遣の様子（令和5年4～7月）



和歌山県立医科大学附属病院紀北分院で実習中の高知大生と和医大生(左)、三重県立志摩病院での高知大生の間崎島の診療体験(右)。



三重県紀和診療所の訪問診療に同行した高知大生(左)、那智勝浦町立温泉病院でエコー実習中の和医大生と高知大生(右)。

Ⅲ. 事業実施状況報告

4 サイトビジット

体験実習

- 令和5年度は実施できていない。
- 令和6年度は、高知、和歌山において学生が実習している期間での地域医療人材養成拠点病院の訪問を検討する。

アクティブラーニングコース

地域総合診療 医療 DX	<ul style="list-style-type: none">• 令和5年度は8月1日、2日に和歌山で実施。高知大学3名、三重大学3名の教員・職員が参加。和歌山県立医科大学附属病院紀北分院、橋本市民病院で実施されているアクティブラーニングコース（5日間）の学生のヒアリングをするとともに施設見学をおこなった。8月2日には和歌山県立医科大学内でサイトビジット会議をおこなった。参加者17名（高知大学3名、和歌山県立医科大学11名、三重大学3名）であった。3大学からアクティブラーニングコースの実施状況について報告された。• 令和6年度は5月に高知大学でのアクティブラーニングコース（地域総合診療コース、医療DXコース）の実施状況の見学、学生へのヒアリングをおこなう予定。
災害救急・ 感染症	<ul style="list-style-type: none">• 令和5年度は三重大学に病院災害訓練の見学を計画したが、日程が政府の大規模地震災害訓練と重なったため断念。• 令和6年3月1日、合同シンポジウムにあわせて、伊勢市内の防災施設見学ツアーを実施し、3大学から計37名の学生・教職員が参加した（p.43）。• 令和6年度は高知で実施予定。高知大学医学部附属病院の災害訓練の評価をお願いする。また三重大学・和歌山県立医科大学の見学もおこなう予定。

長期滞在型クリニカルクラークシップ

- 令和5年5月29日組合立紀南病院（三重）、6月22日、那智勝浦町立温泉病院（和歌山）に実習にあわせて高知大学教員・事務員が訪問した。
- 令和5年8月1日、地域総合診療のアクティブラーニングコースのサイトビジットとあわせて、高知大学、三重大学の教員・事務員が和歌山県の拠点病院（橋本市民病院、和歌山県立医科大学附属病院紀北分院）に訪問した。
- 令和6年度は、5月頃開催予定の地域総合診療のアクティブラーニングコースのサイトビジットにあわせて、高知県の拠点病院を和歌山県立医科大学、三重大学の教職員が訪問することを検討する。

アクティブラーニング（地域総合診療コース）での サイトビジット会議の様子（令和5年8月）



和歌山県立医科大学内で3大学でのサイトビジット会議をおこない、実施状況等を報告した。

長期滞在型クリニカルクラークシップでのサイト ビジットの様子（令和5年6月）



三重県で高知大生が実習中に高知大学教職員が訪問。写真はくまのなる在宅診療所での実習後に撮影。

防災施設見学ツアー

概要と目的

3大学の教員、学生が、三重の防災施設見学おこない意見交換することで、各県の防災医療について学びを深める。

日時

令和6年3月1日（金）

主催

三重大学医学部

会場

伊勢市防災センター

参加者

37人（3大学教職員14人、高知大学学生6人、和歌山県立医科大学学生4人、三重大学学生13人）

タイムスケジュール

- 13:00 J R・近鉄津駅東口 ローソン津駅前店前集合
- 14:15～16:45 伊勢市防災センター（三重大学大学院工学研究科 建築学専攻 川口 淳 教授 講演・防災体験学習）など
- 18:05 三重大学医学部到着

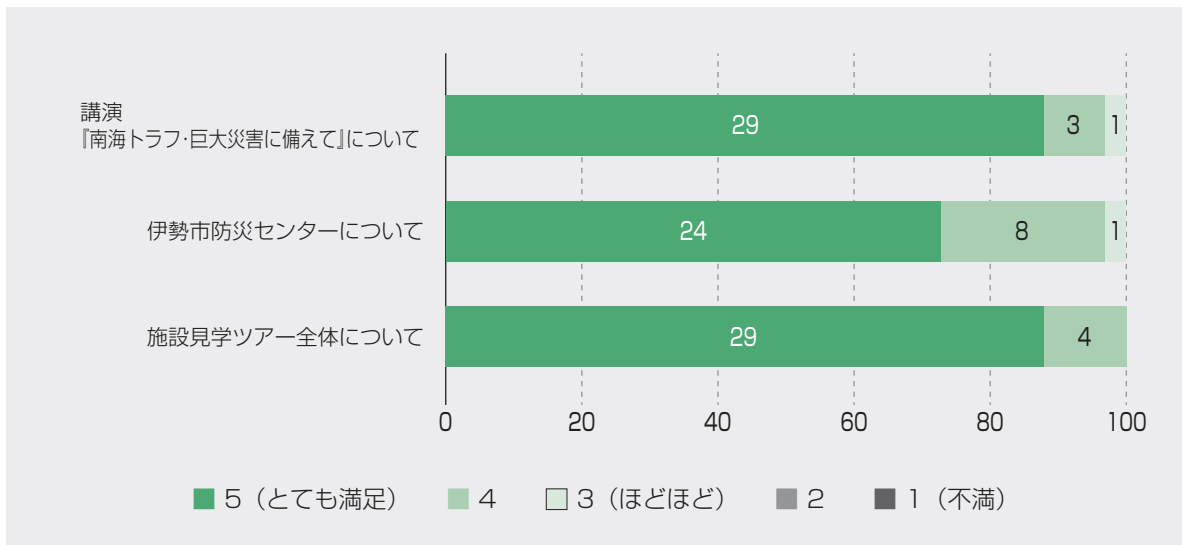


出典：地理院地図 Vector
地理院地図 Vector を加工して作成

Ⅲ. 事業実施状況報告

■ 参加者アンケート

【プログラム満足度】



■ 自由意見

- とても充実した楽しい研修になりました。
- 素晴らしいツアーで大満足です。
- 防災について考えるきっかけになり、いい機会となりました。
- 他学校の学生と交流もできて楽しかったです。

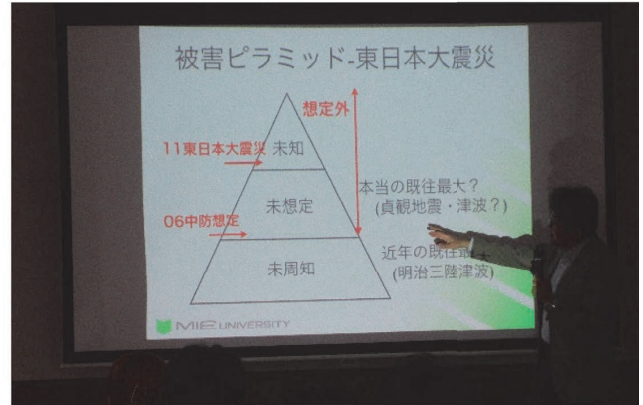
■ 施設見学ツアー 当日の様子



川口 淳 先生による講演



伊勢市防災センター 防災体験学習室



3. 地域志向性アンケート調査

① 研究計画書

(1) 背景と目的

医学の進歩に伴い、医療は高度化、細分化が進み、医師の大病院、都市部への偏在が社会問題となっている。これに対し、全国の医学部では、入学定員を増やし、地域枠として卒業後の医師不足地域での勤務を義務付け、医師の地域偏在の解消に努めている。しかし、地域枠卒業医師が地域ニーズの高い総合的な領域（総合診療、救急、感染症、等）に進むことを期待されているにもかかわらず、専門分化された診療科を志向することも少なくない。学部教育として学生に地域ニーズへの深い理解が求められるようになり、2022年度、文部科学省の補助事業「ポストコロナ時代における医療人材養成拠点形成事業」が公募された。

高知大学、和歌山県立医科大学、三重大学では「黒潮医療人養成プロジェクト」として応募し採択された。3大学の立地する高知県、和歌山県、三重県では、過疎高齢化が進み、中山間地が多く、長い海岸線に沿って集落が点在するなど社会的な状況が類似しており、医療の安定的な確保に共通課題がある。また、南海トラフ巨大地震が発生した際には、甚大な津波被害が予想されている。本事業では、3大学で連携して地域指向型医学教育を推進し、地域ニーズを深く理解し、課題解決のためにリーダーシップを発揮する医療人を養成することを目標としている。

「黒潮医療人養成プロジェクト」では、各県に地域医療人材養成拠点病院を定め、同院での低学年からの体験実習、高学年での長期滞在型のクリニカルクラークシップ（Longitudinal Integrated Clinical Clerkship）、複数学年にわたるアクティブラーニングコース、3大学合同シンポジウムを計画している。こうした地域指向型教育の効果を測るために、継続的に学生の地域指向性を調査することとした。

(2) 研究方法等

ア 研究対象者

2022年度から2028年度に高知大学・三重大学・和歌山県立医科大学に在籍している医学科の学生を対象とする。毎年、1年生（入学時）、3年生、5年生、6年生（卒業時）を対象にアンケート調査を実施する。アンケート実施にあたり、適切な同意を得る。

イ 研究期間

2022年度（倫理委員会承認日）～2029年3月31日

ウ データ収集方法

3大学それぞれに自大学の学生に対し、オンラインで実名のアンケート調査を実施する。アンケート調査項目は、出身地の人口規模、地域指向性尺度15項目とする。アンケート調査項目以外に、大学が把握し所属する教員に開示している学生基本情報（出身地、入試種別、学年、履修科目、等）も利用する。地域指向性尺度は、川本らが開発した地域志向性尺度（文科省科研15K04236）を使用する。

エ 分析方法

研究責任者または研究分担者は、自大学の各学生のアンケート回答データから、個人情報削除し番号を付与し匿名化する。管理番号と学生の個人情報の対応表を別途作成し、アンケート回答データを扱うコンピュータと接続していない外部記録媒体に分けて保管する。管理番号と個人情報の対応表を保存した外部記録媒体は施錠した保管庫で厳重に管理する。研究分担

者は匿名化したアンケート回答データのみを研究責任者に送付する。

地域指向型の教育プログラムの履修により、学生の地域指向性が変化したかを調査し、プロジェクトの有効性を検証する。また、入試制度（地域枠）、出身地の違いにより効果に差異が生じるかも検証する。

(3) 倫理的配慮

本研究は、高知大学医学部倫理委員会の承認を受けることとする。データは厳格に管理することとし、本研究の目的のために限り使用し、第三者に提供及び開示を行わない。研究終了後、不要となるデータ等は速やかに廃棄することとする。

(4) 研究組織

高知大学医学部家庭医療学講座	阿波谷 敏英（研究代表者）
和歌山県立医科大学地域医療支援センター	蒸野 寿紀
三重大学大学院医学系研究科統合薬理学分野	西村 有平

2 令和5年度調査結果

(1) 回答数 / 対象者数

昨年度より回答数は増加しており、全体として72.3%の回答率であった。令和4年度の回答率53.3%よりも大きく上昇した。

学年	高知大学		和歌山県立医科大学		三重大学	
1年生	101 / 113	89.4%	81 / 102	79.4%	54 / 125	43.2%
3年生	90 / 129	69.8%	37 / 110	33.6%	109 / 125	87.2%
5年生	97 / 100	97.0%	91 / 106	85.8%	105 / 121	86.8%
6年生	94 / 121	77.7%	75 / 107	70.1%	74 / 135	54.8%
全体	382 / 463	82.5%	284 / 425	66.8%	342 / 506	67.6%

(2) 地域志向性スコア

入学時は高いが学年が上がるにつれ低下、卒業時に再び上昇する傾向がある。また、出身地の人口規模が小さいほどスコアが高い傾向がある。いずれも令和4年度の調査と同様である。

学年	高知大学		和歌山県立医科大学		三重大学	
1年生	50.61 ± 5.70	n=101	49.43 ± 6.37	n=81	52.24 ± 5.98	n=51
3年生	48.83 ± 6.78	n=89	45.62 ± 6.88	n=37	48.18 ± 7.04	n=109
5年生	48.51 ± 5.93	n=97	48.48 ± 8.84	n=85	46.83 ± 7.09	n=102
6年生	49.05 ± 6.41	n=92	47.61 ± 8.03	n=74	49.49 ± 7.38	n=70
全体	49.28 ± 6.23	n=379	48.14 ± 7.76	n=277	48.67 ± 7.17	n=332

出身地	高知大学		和歌山県立医科大学		三重大学	
大都市	48.04 ± 6.75	n=97	47.45 ± 8.67	n=74	47.67 ± 7.14	n=81
県庁所在地	49.57 ± 6.20	n=155	48.43 ± 7.30	n=115	48.61 ± 7.32	n=109
地方都市	49.65 ± 5.91	n=116	48.15 ± 7.57	n=75	49.06 ± 7.21	n=127
山村・離島	52.09 ± 3.08	n=11	49.54 ± 7.94	n=13	51.20 ± 5.48	n=15
全体	49.28 ± 6.23	n=379	48.14 ± 7.76	n=277	48.67 ± 7.17	n=332

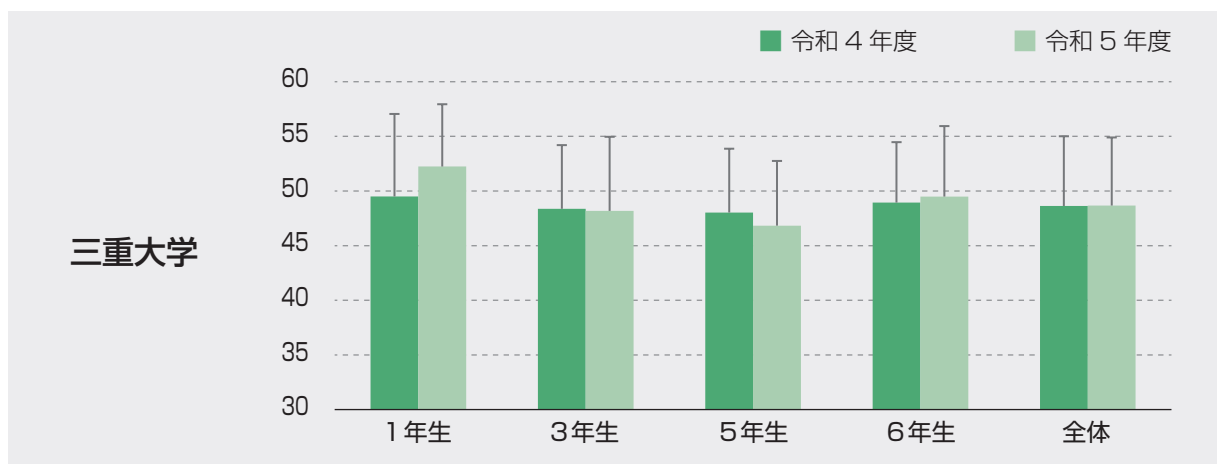
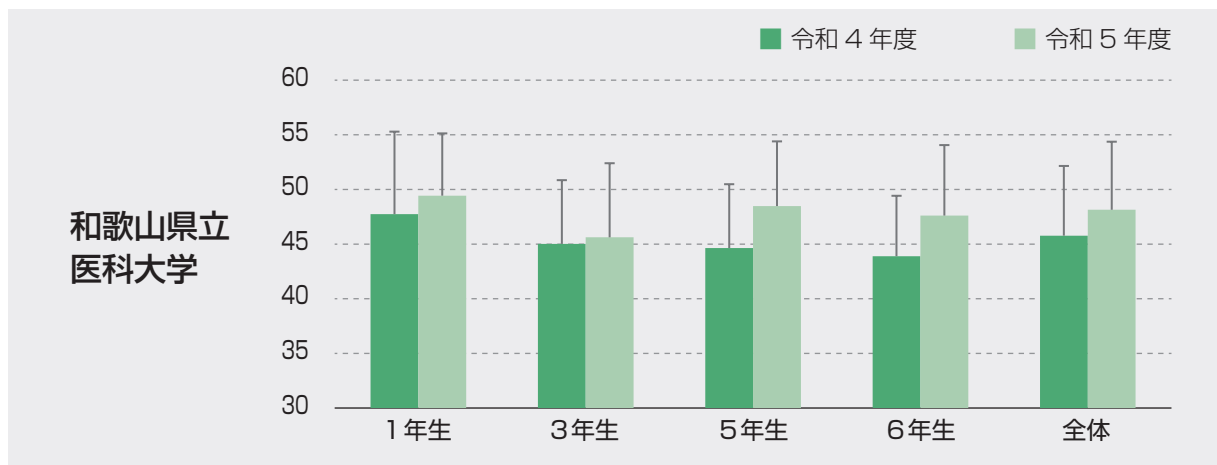
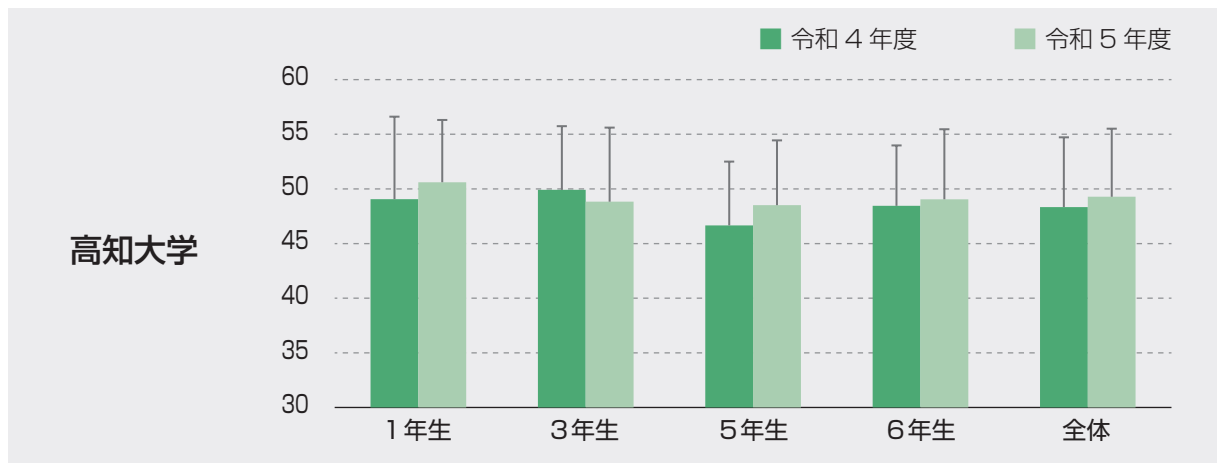
Ⅲ. 事業実施状況報告

③ 経年比較

回答者全体のスコアを令和4年度、5年度で比較したところ、いずれの大学においても、有意差はないものの、スコアが微増する傾向が認められた。

年度	高知大学	和歌山県立医科大学	三重大学
令和4年度	48.34 ± 6.38 n=247	45.77 ± 7.16 n=273	48.63 ± 7.04 n=197
令和5年度	49.28 ± 6.23 n=379	48.14 ± 7.76 n=277	48.67 ± 7.17 n=332

学年別に検討したところ、一部の学年を除いて令和4年度よりスコアが増加する傾向にあった。令和4年度と調査時期が異なっている学年もあり、その影響も考慮する必要がある。

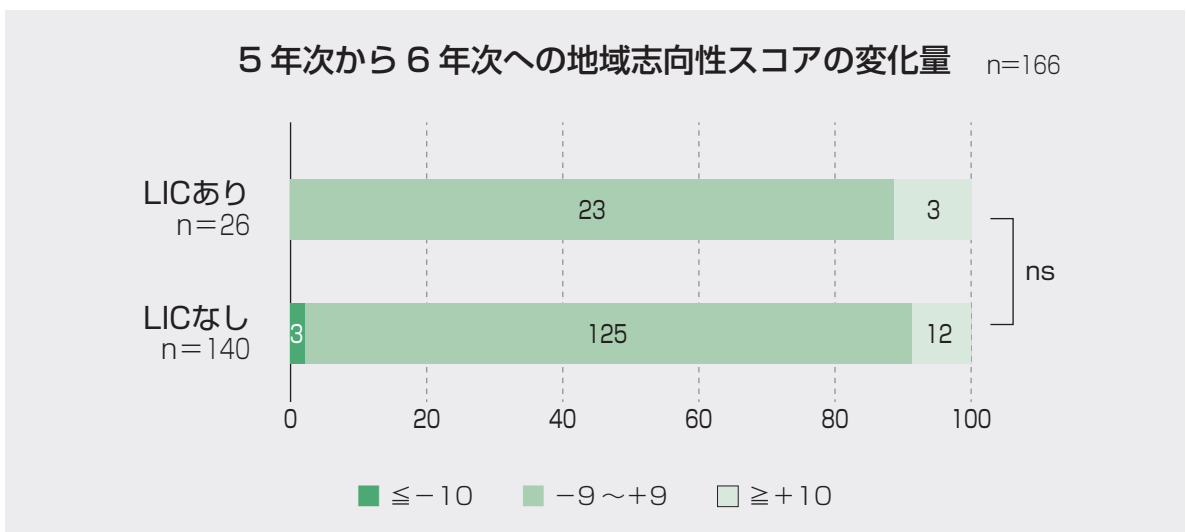


令和4年度（5年生）と令和5年度（6年生）の両方の回答が得られた学生について、地域志向性スコアを比較した。両年で有効回答が得られた学生は166名であった。いずれの大学においてもスコアは上昇傾向にあった。

	高知大学 n=62	和歌山県立医科大学 n=60	三重大学 n=44	全体 n=166
5年次	46.95 ± 5.76	45.00 ± 6.29	49.52 ± 5.89	46.93 ± 6.21
6年次	45.00 ± 6.29	47.38 ± 7.82	50.64 ± 6.75	49.20 ± 7.06
増加量	3.00 ± 5.97	2.38 ± 6.44	1.11 ± 4.58	2.28 ± 5.83

横断的な検討で5年生より6年生のスコアが高い現象は、令和4年度、令和5年度とも同様に観察されており、縦断的な検討でスコアが上昇傾向にあっても、ただちにプロジェクトの効果であるとは断言できない。

次に5年次から6年次へのスコア変化量を、6年次でLIC受講の有無に分けて検討した。両群間に有意差は認められなかった。LICあり群にスコア変化量が-10以下の者はなかった。スコアの変化量が+10以上の者が、LICあり群に3名、LICなし群に12名いた。そのうち、6年次に満点（60点）と回答している学生が7名含まれており、全員がLICなし群であった。6年次に満点と回答することにより結果に大きく影響するため、その理由等については慎重に解析する必要がある。



4. ウェブサイト

(1) 目的

黒潮医療人養成プロジェクトの3大学だけではなく、他大学、地域医療機関の従事者、行政、地域の人々にもプロジェクトを知っていただき、つながりを深めることを目的とし、令和5年2月に開設しました。Instagramとも連動し、プロジェクトでの活動の写真などを発信しています。

(2) 概要

黒潮医療人養成プロジェクトのウェブサイト URL: <https://kuroshio-pjt.com/>

■ コンテンツ

- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| • はじめに | 黒潮医療人養成プロジェクトの概要、事業責任者のあいさつ等 |
| • プログラム説明 | 3大学の各プログラムの説明 |
| • e-learning | 履修学生用のオンライン学習動画コンテンツ |
| • 学生の声 new!! | 本プロジェクトのプログラムを経験した学生と教員との座談会の様子 |
| • シンポジウム | 合同シンポジウムに関する告知や参加申込 |
| • お知らせ・トピックス | 更新のご案内、イベント開催の告知、事業報告書の掲載など |
| • 関係者ページ | 事業推進委員会、事業評価委員会の議事録など |
| • 関係機関リンク | 地域医療人材養成拠点病院のウェブサイトのリンク |

令和5年12月に新たに「学生の声」のページを追加しました。黒潮医療人養成プロジェクトの学びの魅力や成果を、学生の体験談を通じて生き活きと伝えることを目的としています。令和5年度に長期滞在型クリニカルクラークシップ及びアクティブラーニングコースでの実習を経験した学生と教員との座談会の様子を掲載しており、今後更に充実させていく予定です。

また、令和5年5月にGoogleアナリティクス4を導入しました。ウェブサイトに来訪したユーザーの動向を分析し、プロジェクトの魅力がより伝わるよう、発信内容や広報活動の向上に努めます。直近10ヶ月の総ユーザー数は2,054人、総表示回数は1.5万回となっています。

「学生の声」のページ（一部掲載）

長期滞在型クリニカルクラークシップ 座談会

地域拠点病院でLICを実践！

～総合的な臨床能力を身に付ける～

実施概要

実習名：長期滞在型クリニカルクラークシップ
(LIC；Longitudinal Integrated Clerkship)

実施時期：6年次4～7月

実施施設：地域医療人材養成拠点病院



本プロジェクトの集大成ともいえるのが、LIC——地域医療の現場に長期滞在しながら行うクリニカルクラークシップです。令和5年度は高知大学医学部の6年生4人が、三重県と和歌山県の連携拠点病院でプロジェクト初となるLICに参加。その感想を聞いてみました。

僕は入院から退院まで患者さんを診ることや、どういう病気かわからない状態から診るといったことをやりたいと考え今回の LIC に申し込みましたが、志摩病院では希望通りの実習ができたと思います。

実習中は、救急の患者さん以外はすべて僕のところにまず送られてきて、外来も初診はすべて自分が担当で持たせていただきました。患者さんのルート確保やエコーもすべてやらせていただいたので、これから研修医として働く上でのイメージを掴むことができたし、逆に自分の知識不足も実感することができました。



三重県の実習で、デイサービスでの農作業を手伝う高知大生



三重県の紀南病院組合立紀南病院で実習の様子

私は在宅医療の実習の時、「社会福祉協議会に行っておいで」と言われ、朝からデイサービスの利用者の方たちと一緒に農作業をさせていただきました。農作業をしながら認知症のおばあちゃん、おじいちゃんとおしゃべりする中で、デイサービスがあって気持ちよくなってんだよと教えていただきました。

またケアマネジャーの方と一緒にいろいろなお家に入れていただいて、他の職種の仕事内容を勉強させていただくこともでき、とてもよかったです。こんなことは普通の実習ではできないと思います。



◀ 三重県立志摩病院 (写真上)で実習をおこなった高知大生

Instagram

ID : kuroshio_pj



Instagram

プロジェクトのイベントや体験実習などの様子を投稿し、情報の発信をおこなっています。インスタグラムを導入することで、より多くの人々や医療機関と情報共有をおこない、プロジェクトをさらに身近に感じてもらえるように努めます。



kuroshio_pj

プロフィールを編集

アーカイブを見る

広告ツール

投稿40件 フォロワー147人 フォロー中95人

黒潮医療人養成プロジェクト

地域から日本の医療の未来を描く！

高知大学、和歌山県立医科大学、三重大学が協働し、新世代の地域医療人材を養成します。

過去30日間に164件のアカウントにリーチしました。 [インサイトを見る](#)

黒潮医療人養成プロジェクト ロゴマークについて



黒潮医療人養成プロジェクト

黒潮の“K”の文字を3色のブロックで表現し、黒潮の波のイメージを合わせています。

色は、和歌山県立医科大学がオレンジ、三重大学がグリーン、高知大学がブルーと各大学のイメージカラーを取り入れています。

ロゴは、白と濃紺でクリーンな医療のイメージと親しみのある印象の書体としています。

文部科学省
ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

黒潮医療人養成プロジェクト 令和5年度 事業報告書

(令和5年4月～令和6年3月)

高知大学・和歌山県立医科大学・三重大学

事務局 高知大学医学部病院事務部
総務企画課 地域医療支援室
TEL : 088-888-2744
E-mail : kuroshiodmp@kochi-u.ac.jp



黒潮医療人養成プロジェクト